

高齢者の感覚器（視覚・聴覚）における機能低下等に対する
実態把握と予防・治療法の標準化に関する研究（21指-17）

主任研究者 山田 潤 国立長寿医療研究センター 眼科医長

研究要旨

2年間全体について

加齢や疾病による感覚器（視覚・聴覚）障害が高齢者のQOLを著しく低下させている。近年の高齢視覚障害者の増加や(平成17年度厚生労働省難治性疾患克服研究事業)、聴力障害の高い有病率(疾病の第2位:WHO世界疾病調査,2008)をふまえたうえで、感覚器障害の克服を目指し、高齢者のQOLの維持を最終目的として研究を行ってきた。すなわち、高齢者に特化した視機能障害・聴覚機能障害に関する包括的研究を各分野の専門医と連携し、予防法・早期診断法・治療法の開発と標準化を行ってきた。主な対象疾患として加齢に伴って増加する緑内障、加齢黄斑変性、角膜内皮障害、加齢性難聴についての検討をおこなうとともに、高齢者や認知症のための他覚的な感覚器機能診断装置(瞳孔視野計:他覚的な視野検査機器、眼瞼運動記録装置:他覚的なスクリーニングを目的とした機器)の開発を行った。

平成22年度について

高齢者のQOLの維持を目的として、高齢者に特化した視機能障害・聴覚機能障害に関する包括的研究(予防法・早期診断法・治療法の開発と標準化)を行った。

緑内障については、「簡便な血液検査による緑内障発症の遺伝的リスク判定健診」にむけて、緑内障症例とコントロール例を全ゲノム解析するとともに信頼性検証方法を発表した。また、緑内障マーカーSNPの信頼性向上のために、別集団の緑内障症例とコントロール例の合計1890例についてアフィメトリクス社の最新1000Kチップを用いて全ゲノム解析を実行した。手術の標準化に対し、原発閉塞隅角緑内障/隅角症に対する隅角癒着解離の成績を解析するとともに、臨床標本や動物モデル眼を用いることで、濾過胞結膜の創傷治癒に及ぼす房水組成や炎症細胞浸潤などの影響を解析した。

加齢黄斑変性(AMD)においては、診断を標準化するため、スペクトラルドメイン光干渉断層計を用いた脈絡膜断層像視覚化法を確立し、AMDのサブタイプ別の病態評価を定量的、定性的に行った。また、臨床治療の標準化のため、ranivizumab(VEGFのすべてのアイソフォームと結合する抗体のFab)と、pegaptanib(VEGF165以上にのみ結合)といった抗VEGF剤使用による眼内のVEGF動態を検討した。予防と治療には、チオールドックス偏倚によって病的なVEGF産生が抑制できることと網膜繊維瘢痕化を制御できることを示した。

角膜内皮治療薬の開発を目指した研究については、選択的Rhoキナーゼ阻害剤を用い、

霊長類角膜内皮細胞培養系での角膜内皮細胞の細胞接着、細胞増殖、アポトーシスへの影響について検討した。さらに、家兎とカニクイザルを用いた Rho キナーゼ阻害剤 (Y-27632) の点眼効果を証明し、臨床応用への基礎固めを行った。

加齢性難聴においては、NILS-LSA を利用した検討で、60 歳代の 4 人に 1 人以上が新たに難聴を発症することが判明した。また、中高年の難聴と関連をもつ新たな感受性多型を多数決定した。さらに、生活習慣病 (糖尿病・動脈硬化) と難聴との関連を明らかにし、解析中である。臨床では、加齢性難聴が比較的早く出現するファブリー病での解析を行った。基礎的検討では、人における遺伝的加齢性難聴疾患 (OASD) の原因遺伝子 (TBL1) のホモログである ebi の機能欠損を光受容細胞で作出したショウジョウバエと、TBL1 のドミナントネガティブ型を内耳有毛細胞で特異的に発現する Tg マウスとの加齢性難聴モデルを確立した。加齢性感覚器障害の発症には酸化ストレス応答および炎症反応の両過程で機能する JNK と AP-1 の関与が判明し、機序解明に向けての検討を開始した。また、マウス加齢性難聴モデル (B6 マウス) では加齢、聴力低下とともに内耳蝸牛での酸化ストレスの関与が明らかとなった。

他覚的視機能診断装置の開発においては、瞳孔視野計を開発・改良するとともに、年齢ごとの正常データを集積して正常データの傾向ならびに加齢変化についての一定の正常基準を得た。また、高齢者における感度 44%、特異度 99% の緑内障他覚的診断が可能となった。次に、中枢神経疾患の初期段階のスクリーニングへの応用を目的として、瞬目高速解析装置を開発した。自発および随意瞬目検査によって、加齢に伴う瞬目パターン、瞬目速度および頻度を測定・解析した。

主任研究者

山田 潤 国立長寿医療研究センター 眼科 (医長)

分担研究者

内田 育恵	国立長寿医療研究センター	耳鼻咽喉科 (医長)
津田 玲生	国立長寿医療研究センター	老化機構研究部 (室長) (平成 21 年度のみ)
中島 務	名古屋大学	耳鼻咽喉科学 (教授)
寺西 正明	名古屋大学	耳鼻咽喉科学 (講師)
寺崎 浩子	名古屋大学	眼科学 (教授)
木下 茂	京都府立医科大学	視覚機能再生外科学 (教授)
上野 盛夫	京都府立医科大学	視覚機能再生外科学 (助教)
田代 啓	京都府立医科大学	ゲノム医科学 (教授)
田淵 昭雄	川崎医療福祉大学	感覚矯正学科 (教授)
谷原 秀信	熊本大学	視機能病態学 (教授)
小泉 範子	同志社大学	生命医科学部医工学科 (教授)

研究期間 平成21年6月26日～平成23年3月31日

A. 研究目的

高齢者のQOLを保つためには外界からの情報を得る器官である視覚器(眼)と聴覚器(耳)が重要なのは言うまでもない。本研究は高齢者のQOL改善を目的として、視機能障害・聴覚機能障害を克服するための包括的研究を高齢者に特化して行う。

視覚障害に関しては、15年ぶりに施行された視覚障害について信頼性の高い全国規模の調査(厚生労働省難治性疾患克服研究事業 網脈絡膜・視神経萎縮症に関する研究班平成17年度研究報告書)により高齢視覚障害者の増加(70歳以上が52%)が明らかになった。その結果をふまえて疾患としては、後期高齢者の主な視覚障害原因である緑内障と黄斑変性症(主に加齢黄斑変性)の克服を目指す。また現在有効な治療薬が存在せず、加齢により発症頻度が増す、角膜内皮障害に対する保存的治療のための角膜内皮治療薬の開発を目指して、臨床応用可能な低分子化合物を中心に基礎研究を行う。また現行では視機能の評価する他覚的検査が存在せず、高齢者における適切な視機能検査がなされていないのが現状である。そこで、高齢者が受検しやすい客観的視機能診断装置の開発と標準化・均てん化を行う。さらに眼瞼や瞳孔の動きは運動神経と筋肉のみならず、自律神経の機能により制御されている点に注目し、非侵襲的で客観的な眼瞼・瞳孔解析装置による神経・筋肉の老化度判定法を開発し、高齢者の神経、筋肉疾患の初期段階のスクリーニングへの標準化・均てん化を目指す。

聴覚障害に関しては、聴力障害研究の必要性が示されている報告を踏まえた研究を行う。すなわち、2008年に発表されたWHO世界疾病調査Global Burden of Disease 2004の結果によると、聴力障害は調査地域全体でみた総合有病率第2位の疾病であること。また、高齢者にとっては、手段的日常生活活動度の制限に影響したり、将来の施設介護ケアを必要とするリスクを高めるなど、不利益をもたらすという報告が多くなされていることなどである。そこで本研究計画では、高齢期に見られる難聴の危険因子同定、超高齢期あるいは認知機能低下を伴う高齢者においても可能な客観的聴力評価法の確立、実験動物でみる加齢性難聴発症メカニズムの解明等、多角的アプローチにより加齢に伴う聴力障害の克服をめざす。

B. 研究方法

視覚障害にかかわる研究

【緑内障】ゲノム情報を絡めた緑内障の発症・予後予測診断技術の開発、すなわち、信頼性の高い診断チップのプロトタイプを得ることを目的として、緑内障症例とコントロー

ル例の合計 1575 例をアフィメトリクス社とイルミナ社のチップを用いて全ゲノム解析した。さらに、取得したマーカー SNP に準拠した統合的判定アルゴリズム開発を行って特許出願した。また、高信頼性の緑内障マーカー SNPs の同定のためのアフィメトリクス社の最新 1000K チップ解析研究を実施した。手術の標準化のため、緑内障術後のリスクについての後ろ向き研究を行うとともに、動物モデルを用いた術後の濾過胞結膜の創傷治癒と炎症細胞浸潤などの影響を解析した。

【加齢黄斑変性症(AMD)】 サブタイプ別に病態・治療が異なることから、診断・治療の標準化のために、研究協力者の古泉らが開発した Enhanced Depth Imaging OCT 法(Am J Ophthalmol 2008)を用いて脈絡膜断層像を取得、レトロスペクティブに定量的評価を行った。また、本邦における遺伝子多型を検討するとともに血清中の CRP との相関を検討した。さらに抗 VEGF 剤の違いによる眼内 VEGF 濃度を検討し治療の標準化を試みた。細胞内還元型グルタチオン誘導剤による人為的操作により、マクロファージ注入網膜線維化モデルと網膜色素上皮細胞株におけるサイトカイン産生の制御を試みた。

【角膜内皮細胞治療薬】 選択的 Rho キナーゼ阻害剤を用い、霊長類角膜内皮細胞培養系での角膜内皮細胞の細胞接着、細胞増殖、アポトーシスへの影響について検討した。さらに、in vitro の角膜内皮創傷モデルを用いて、角膜内皮創傷治癒に与える影響を検討した。ヒト胚性幹細胞を用いた霊長類角膜内皮細胞培養基質の開発を試みた。平成 22 年度は臨床応用を目指して、ウサギやカニクイザルの部分的角膜内皮障害モデルに対する選択的 Rho キナーゼ阻害剤の点眼投与効果を検討した。

【加齢性難聴】

NILS-LSA を用いた感受性多型を検討した。高齢者での感音難聴の原因疾患であり、近年増加傾向にある突発性難聴とメニエール病について発症の危険因子を検討した。

加齢性難聴が比較的早く出現するファブリー病についての解析を行った。

加齢性感覚器障害の発症機序解析と治療薬の検索を目的として、人における遺伝的加齢性難聴疾患(OASD)の原因遺伝子 (TBL1) に注目しショウジョウバエモデル、マウスモデルの作成と解析を行った。

マウス加齢性難聴モデル(C57/BL6 マウス)を用いた内耳蝸牛の解析を行った。

【他覚的視機能診断装置の開発】 感覚器の自覚的機能検査は高齢者には不向きであり、認知機能低下を伴う場合はしばしば検査不能に陥るため、緑内障の確定診断やスクリーニングができない。そこで瞳孔視野計 (一定角度からの白色光による対光反射について、瞳孔径を計測・解析できる装置) を開発・改良し、標準化した。

瞬目高速解析装置を用いて自発性および随意性瞬目検査を施行し、若年者と高齢者の瞬目パターン、瞬目速度、頻度を測定・解析した。

(倫理面への配慮)

本研究におけるヒトを対象とした検討は、国立長寿医療研究センターや所属大学などの

各施設における研究倫理委員会の承認を受けた研究計画に従い、倫理委員会承認どおりの厳格なデータ取り扱いをおこなった。動物実験に関しても、各施設における研究倫理委員会の承認を受けた研究計画に従い、動物福祉に配慮して実施した。

C. 研究結果

【緑内障】京都府立医科大学眼科で収集した緑内障症例とコントロール例の合計 1575 例をアフィメトリクス社とイルミナ社のチップを用いて全ゲノム解析した。緑内障疾患感受性マーカー候補 SNPs を同定した。これらのマーカー SNP に準拠した統合的判定アルゴリズム開発を行った。また、緑内障マーカー SNP の信頼性向上のために、上記と別集団の緑内障症例とコントロール例の合計 1890 例についてアフィメトリクス社の最新 1000K チップを用いて全ゲノム解析を実行した。

緑内障手術であるトラベクトミーにおける解析においては、血管新生緑内障とトラベクトミー既往の回数が有意な予後不良因子であった。硝子体手術既往のある濾過手術における危険因子も同定できた。また、緑内障患者や術後患者における前房水中のケモカイン情報も明らかとなった。

【加齢黄斑変性症(AMD)】 Depth Imaging OCT 法(Am J Ophthalmol 2008)を用いた脈絡膜厚の観察により、狭義 AMD と PCV と RAP とに有意な違いがみられた。

AMD に関連する遺伝子多型である ARMS2 遺伝子の c.*372_815del443ins54 多型 (del443 多型)について、名古屋大学病院での滲出型 AMD 症例では rs10490924 / rs11200638 と連鎖不均衡の関係を確認し、滲出型 AMD と血清 CRP 値の関連が認められた。また、抗 VEGF 剤注射前後の眼内 VEGF 濃度においては ranibizumab 投与により減少し、pegaptanib 投与により増加していた。

網膜色素上皮細胞株を用いた VEGF 産生の検討においては、還元型グルタチオン誘導によって炎症による病的分泌のみを阻害できることがわかった。

【加齢性難聴】 中高年の難聴と関連をもつ新たな感受性多型を NILS-LSA を利用して同定し、EDN1(オッズ比、約 1.13)、UCP 2(オッズ比、約 1.26)、FABP2 (オッズ比、約 1.26) 遺伝子多型を報告した。次に、酸化ストレス関連 7 遺伝子 9 多型の解析において NOS3、グルタチオン S 転フェラーゼ、NADH/NADPH オキシダーゼ p22phox の多型が周波数別の聴力と関連し、NOS3 の多型が有意な難聴のリスクである事が判明した。近年、我が国の高齢者での突発性難聴の発症が増加しており、脳血管障害との症例背景の共通性が注目されている。この現状を踏まえ、大脳白質病変(White matter lesions)が高度な群では、PRKCH 変異アレルと突発性難聴リスクとに有意な関連があった。逆に MTR が野生型であれば、MTHFR 遺伝子変異アレルの存在が難聴リスクの低下と関連していた。

生活習慣病（糖尿病・動脈硬化）と難聴との関連を検討したところ、低周波数領域の聴力と糖尿病病期期間、4000Hz 聴力と血清クレアチニン値、6000・8000Hz 聴力と空腹時血

糖値とに有意な関連があった。一般線形モデルにおける糖尿病と加齢の交互効果は 4000Hz、8000Hz といった高周波数領域にみられ、中年群の聴力に糖尿病の有害効果がより顕著に現れた。動脈硬化は、8000Hz 聴力の悪化に有意に関連し、騒音曝露による聴力への悪影響を相乗的に強めることが判明した。

突発性難聴とメニエール病について、血管内皮型 NO 合成酵素、CFH(Complement Factor H)が突発性難聴の発症の危険因子と判明した。IL-1 (α 、-889C/T) 遺伝子多型は、突発性難聴およびメニエール病のいずれに対しても発症の危険因子となり、NILS-LSA のコントロール(一般住民)と比較すると、劣性モデルでのオッズ比はそれぞれ 25.89、18.20 と非常に高値であった。

ファブリー病では、60 歳以上での加齢に伴う聴力障害(純音聴力のうち高周波領域)と、男性での有意な増悪が見られた。

TBL1 のホモログである ebi の機能欠損を光受容細胞で作出したショウジョウバエと、TBL1 のドミナントネガティブ型を内耳有毛細胞で特異的に発現する Tg マウスとの加齢性難聴モデルを確立した。ショウジョウバエでの OASD 発症がモニター可能となり、加齢性感覚器障害の発症には酸化ストレス応答および炎症反応の両過程で機能する JNK と AP-1 の関与が判明した。マウス OASD モデルでは 100db 騒音曝露後の回復に異常が認められ、感音性難聴の表現型を示した。

マウス加齢性難聴モデル(C57/BL6 マウス)では加齢、聴力低下とともに内耳蝸牛での核酸の酸化ストレスマーカー (8-OG)、脂質過酸化のマーカー (MDA) の発現増強を認めた。また蝸牛全体のタンパク質を抽出し、プロテオミクス解析を行ったところ、ミトコンドリア関連タンパクや抗酸化作用をもつペロキシレドキシンの発現低下が見られた。

【他覚的視機能診断装置の開発】瞳孔視野計においては、年齢ごとの正常データを集積し、正常データの傾向ならびに加齢変化についての一定の正常基準を得た。また、人工水晶体眼において感度 44%、特異度 99%の緑内障診断が可能となった。

瞬目高速解析装置においては、高齢者は自発瞬目、随意瞬目ともに浅い瞬目で、瞬目回数も少なく、瞬目速度も下降・上昇ともに遅かった。

D. 考察と結論

【緑内障】「簡便な血液検査による疾患感受性リスク判定健診」を全国民におこなって緑内障発症の遺伝的体質を検査し、高リスクな例について眼科専門医が精密検査後に投薬を指示するという一連の仕組みにむかって順調に進展できている。また、臨床の術後解析の成果により、将来的に緑内障治療の改善に結び付け、より質の高い高齢者の生活に貢献できることが見込まれる。

【加齢黄斑変性症(AMD)】滲出型加齢黄斑変性の表現型は脈絡膜循環の差異が深く関連している可能性があり、今後の診断や治療へ向けての解析が期待できる。AMD における炎症の関与と眼内の高い TGF- β の存在によって VEGF が大量に産生されることが考えられ、

抗炎症、ならびに還元型グルタチオンを誘導できるような薬剤やカロリーリストラクションなどの予防治療が今後の検討として期待できる。

【加齢性難聴】今後、NILS-LSA 第 6 次調査(2008-2010)の終了によって 10 年間の縦断解析とさらなる危険要因の解明が可能となる。加齢性難聴の縦断研究は国際的にも貴重である。観察症例は今も蓄積中であり、今後の継続検討により生活習慣病と難聴との関連とに明確な結論が見いだせる。糖尿病のコントロールの程度と聴力検査との関係についても検討が可能である(名古屋大学と共同)。また認知機能低下症例における、標準的な純音聴力検査結果と他覚的評価の比較についての検討が期待できる。

ファブリー病は血管内皮細胞の障害から心筋梗塞、脳梗塞、視覚障害が多く、内耳の障害も血流障害に起因すると考えられる。加齢性難聴の進行予防に対する酸素療法の試みや、眼科を含めた本研究班による総合的な解釈が期待できる。今後、加齢や糖尿病の Auditory Steady State Response(ASSR)への影響やコホートスタディにつなげることが可能となった。

ショウジョウバエモデルにおいては加齢性難聴の発症機序解析や発症抑制薬剤の同定が期待できる。マウスモデルにおいては発症における炎症応答の解明や発症の分子メカニズムの解明、発症抑制薬剤の同定が期待できる。

マウス加齢性難聴モデル(C57/BL6 マウス)では、内耳蝸牛の組織(内外有毛細胞や血管条など)を用いた遺伝子発現増強や、抗酸化剤投与による予防・治療効果の検討が期待できる。また小胞体ストレス(酸化ストレスと密接に関連)を免疫組織学的に評価することで動物モデルでの加齢による内耳性難聴の病態解明と、有効な治療法や予防法の開発が期待できる。

【他覚的視機能診断装置の開発】従来困難であった高齢者に対しても視機能の評価が他覚的な方法によって可能となれば、眼科的疾患の早期発見、早期介入することで治療効果の向上が期待される。その結果、視覚の質ならびに視的活動性の向上や日常生活行動におけるリスク回避に貢献できると考えられる。また、瞬目解析装置による中枢神経疾患に特徴的な瞬目が検出可能となれば、瞬目運動解析による老化度の判定を基準として、認知症を合併した高齢者を対象とした他覚的検査による中枢神経疾患の早期発見が期待できる。

E. 健康危険情報

なし

F. 研究発表

1. 論文発表

平成 21 年度

1) Fukushima A, Ishida W, Kajisako M, Sumi T, Yamada J, Tsuru E, Miyazaki J, Tominaga A,

Yagita H: Participation of CD11b and F4/80 Molecules in the Conjunctival Eosinophilia of Experimental Allergic Conjunctivitis. *Int Arch Allergy Immunol.* 151(2):129-136,2010.

2) Yamada J, Hamuro J, Fukushima A, Ohteki T, Terai K, Iwakura Y, Yagita H, Kinoshita S: MHC-matched corneal allograft rejection in an IFN-gamma/IL-17-independent manner in C57BL/6 mice. *Invest Ophthalmol Vis Sci.* 50(5):2139-46, 2009.

3) 杉浦彩子, 内田育恵, 中島務: 高齢者診療の臨床背景—国立長寿医療センター耳鼻咽喉科外来での統計から—。 *日本耳鼻咽喉科学会会報* 112:534-539, 2009.

4) Yokoi R, Asami T, Kachi S, Ito Y, Nakamura M, Terasaki H: A case of acute retinal necrosis after corticosteroid pulse therapy for unilateral Vogt-Koyanagi-Harada disease. *Retinal Cases & Brief Reports.* 4(1):51-54,2010.

5) Kondo M, Kondo N, Ito Y, Kachi S, Kikuchi M, Yasuma TR, Ota I, Kensaku M, Terasaki H: Intravitreal injection of bevacizumab for macular edema secondary to BRVO: Results after 12-months and multiple regression analysis. *Retina.* 29(9):1242-1248,2009.

6) Sakai T, Kondo M, Ueno S, Koyasu T, Komeima K, Terasaki H: Supernormal ERG oscillatory potentials in transgenic rabbit with rhodopsin P347L mutation and retinal degeneration. *Invest Ophthalmol Vis Sci.* 50(9):4402-4409,2009.

7) Ishikawa K, Nishihara H, Ozawa S, Piao CH, Ito Y, Kondo M, Terasaki H: Focal Macular Electroretinograms After Photodynamic Therapy Combined With Posterior Juxtасcleral Triamcinolone Acetonide. *Retina.* 29(6):803-810,2009.

8) Ozawa S, Ishikawa K, Ito Y, Nishihara H, Yamakoshi T, Hatta Y, Terasaki H: Differences in macular morphology between polypoidal choroidal vasculopathy and exudative age-related macular degeneration detected by optical coherence tomography. *Retina.* 29(6):793-802,2009.

9) Nonobe NI, Kachi S, Kondo M, Takai Y, Takemoto K, Nakayama A, Hayakawa M, Terasaki H: Concentration of vascular endothelial growth factor in aqueous humor of eyes with advanced retinopathy of prematurity before and after intravitreal injection of bevacizumab. *Retina.* 29(5):579-585,2009.

1 0) Yamakoshi T, Kachi S, Sugita J, Asami T, Ishikawa K, Ito Y, Terasaki H: Triamcinolone-assisted removal of internal limiting membrane enhances the effect of vitrectomy for diabetic macular edema. *Ophthalmic Res.* 41(4):203-209,2009.

1 1) Kondo M, Sakai T, Komeima K, Kurimoto Y, Ueno S, Nishizawa Y, Usukura J, Fujikado T, Tano Y, Terasaki H: Generation of a transgenic rabbit model of retinal degeneration. *Invest Ophthalmol Vis Sci.* 50(3):1371-1377,2009.

1 2) Nakamura Y, Kondo M, Asami T, Terasaki H: Comparison of macular hole surgery without internal limiting membrane peeling to eyes with internal limiting membrane peeling with and without indocyanine green staining: three year follow-up. *Ophthalmic Res.* 41(3):136-141,2009.

1 3) Iwata EA, Sato M, Ukai K, Terasaki H: Magnetic resonance imaging of the extraocular muscle path before and after strabismus surgery for a large degree of cyclotorsion induced by macular

translocation surgery. *Jpn J Ophthalmol.* 53(2):131-137,2009.

1 4) Nishiguchi KM, Kaneko H, Nakamura M, Kachi S, Terasaki H: Generation of immature retinal neurons from proliferating cells in the pars plana after retinal histogenesis in mice with retinal degeneration. *Mol Vis.* 15(2):187-199,2009.

1 5) Kurimoto Y, Kondo M, Ueno S, Sakai T, Machida S, Terasaki H: Asymmetry of focal macular photopic negative responses (PhNRs) in monkeys. *Exp Eye Res.* 88(1):92-98,2009.

1 6) Ang LP, Tanioka H, Kawasaki S, Ang LP, Yamasaki K, Do TP, Thein ZM, Koizumi N, Nakamura T, Yokoi N, Komuro A, Inatomi T, Nakatsukasa M, Kinoshita S: Cultivated human conjunctival epithelial transplantation for total limbal stem cell deficiency. *Invest Ophthalmol Vis Sci.* 51(2):758-764,2010.

1 7) Ueta M, Kinoshita S: Innate immunity of the ocular surface. *Brain Res Bull.* 81(2-3):219-228,2010.

1 8) Matsuda A, Ebihara N, Yokoi N, Kawasaki S, Tanioka H, Inatomi T, de Waal Malefyt R, Hamuro J, Kinoshita S, Murakami A: Functional role of thymic stromal lymphopoietin in chronic allergic keratoconjunctivitis. *Invest Ophthalmol Vis Sci.* 51(1):151-155,2010.

1 9) Tanioka H, Kawasaki S, Sotozono C, Nakamura T, Inatomi T, Kinoshita S: The relationship between preoperative clinical scores and immunohistological evaluation of surgically resected tissues in chronic severe ocular surface diseases. *Jpn J Ophthalmol.* 54(1):66-73,2010.

2 0) Sotozono C, Ueta M, Kinoshita S: Systemic and local management at the onset of Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis with ocular complications. *Am J Ophthalmol.* 149(2):354,2010.

2 1) Fukumoto A, Maruyama K, Walsh T, Kajiya K, Hamuro J, D'Amore PA, Kinoshita S: Intracellular Thiol Redox Status Regulates Lymphatic Vessel Growth in the Cornea and Dictates Corneal Limbal Graft Survival. *Invest Ophthalmol Vis Sci.* 51(5):2450-8,2010.

2 2) Koizumi H, Maruyama K, Kinoshita S: Blue light and near-infrared fundus autofluorescence in acute Vogt-Koyanagi-Harada disease. *Br J Ophthalmol.* 94(11):1499-505,2010.

2 3) Nakano M, Ikeda Y, Yagi T, Mori K, Kinoshita S, Tashiro K. Reply to Rao et al.: Appropriate study design for genome-wide association study replication to identify variants modestly associated with complex traits. *Proc Natl Acad Sci.* 2009;106(44):125-127.

2 4) Matsuda A, Ebihara N, Yokoi N, Okayama Y, Watanabe Y, Kawasaki S, Tanioka H, Walls AF, Hamuro J, Kinoshita S, Murakami A: Basophils in the giant papillae of chronic allergic keratoconjunctivitis. *Br J Ophthalmol.* 94(4):513-8,2010.

2 5) Nakano M, Ikeda Y, Taniguchi T, Yagi T, Fuwa M, Omi N, Tokuda Y, Tanaka M, Yoshii K, Kageyama M, Naruse S, Matsuda A, Mori K, Kinoshita S, Tashiro K: Three susceptible loci associated with primary open-angle glaucoma identified by genome-wide association study in a Japanese population. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 4;106(31):12838-12842,2009.

- 2 6) Ueta M, Sotozono C, Takahashi J, Kojima K, Kinoshita S: Examination of *Staphylococcus aureus* on the ocular surface of patients with catarrhal ulcers. *Cornea*. 28(7):780-782,2009.
- 2 7) Matsuda A, Okayama Y, Terai N, Yokoi N, Ebihara N, Tanioka H, Kawasaki S, Inatomi T, Katoh N, Ueda E, Hamuro J, Murakami A, Kinoshita S: The role of interleukin-33 in chronic allergic conjunctivitis. *Invest Ophthalmol Vis Sci*. 50(10):4646-4652,2009.
- 2 8) Tanioka H, Yokoi N, Komuro A, Shimamoto T, Kawasaki S, Matsuda A, Kinoshita S: Investigation of the corneal filament in filamentary keratitis. *Invest Ophthalmol Vis Sci*. 50(8):3696-3702,2009.
- 2 9) Okumura N, Ueno M, Koizumi N, Sakamoto Y, Hirata K, Hamuro J, Kinoshita S: Enhancement on primate corneal endothelial cell survival in vitro by a ROCK inhibitor. *Invest Ophthalmol Vis Sci*. 50(8):3680-3687,2009.
- 3 0) Nakano M, Ikeda Y, Taniguchi T, Yagi T, Fuwa M, Omi N, Tokuda Y, Tanaka M, Yoshii K, Kageyama M, Naruse S, Matsuda A, Mori K, Kinoshita S, Tashiro K: Three susceptible loci associated with primary open-angle glaucoma identified by genome-wide association study in a Japanese population. *Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A.* 106(31):12838-12842,2009.
- 3 1) Nakano M, Ikeda Y, Yagi T, Mori K, Kinoshita S, Tashiro K. Reply to Rao et al.: Appropriate study design for genome-wide association study replication to identify variants modestly associated with complex traits. *Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A.* 106(44):125-126,2009.
- 3 2) Takihara Y, Inatani M, Fukuhima M, Iwao K, Tanihara H: Trabeculectomy with mitomycin C for neovascular glaucoma: prognostic factors for surgical failure. *American Journal of Ophthalmology*. 147:912-918,2009.
- 3 3) Iwao K, Inatani M, Ogata-Iwao M, Takihara Y, Tanihara H: Restricted post-trabeculectomy bleb formation by conjunctival scarring. *Graefe's Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology*. 247:1095-1101,2009.
- 3 4) Iwao K, Inatani M, Matsumoto Y, Ogata-Iwao M, Takihara Y, Irie F, Yamaguchi Y, Okinami S, Tanihara H: Heparan sulfate deficiency leads to Peters' anomaly in mice by disturbing neural crest TGFbeta2 signaling. *Journal of Clinical Investigation*. 119:1997-2008,2009.
- 3 5) Nakamura J, Meguro A, Ota M, Nomura E, Nishide T, Kashiwagi K, Mabuchi F, Iijima H, Kawase K, Yamamoto T, Nakamura M, Negi A, Sagara T, Nishida T, Inatani M, Tanihara H, Aihara M, Araie M, Fukuchi T, Abe H, Higashide T, Sugiyama K, Kanamoto T, Kiuchi Y, Iwase A, Ohno S, Inoko H, Mizuki N: Association of toll-like receptor 2 gene polymorphisms with normal tension glaucoma. *Mol Vis*. 15:2905-2910,2009.
- 3 6) Nakamura K, Ota M, Meguro A, Nomura N, Kashiwagi K, Mabuchi F, Iijima H, Kawase K, Yamamoto T, Nakamura M, Negi A, Sagara T, Nishida T, Inatani M, Tanihara H, Aihara M, Araie M, Fukuchi T, Abe H, Higashide T, Sugiyama K, Kanamoto T, Kiuchi Y, Iwase A, Ohno S, Inoko H, Mizuki N: Association of microsatellite polymorphisms of the GPDS1 locus with normal tension glaucoma in the

Japanese population. *Clinical Ophthalmology*. 3:307-312,2009.

3 7) Iwao K, Inatani M, Ogata-Iwao M, Yamaguchi Y, Okinami S, Tanihara H: Heparan sulfate deficiency in periocular mesenchyme causes microphthalmia and ciliary body dysgenesis. *Experimental Eye Research*, 90:81-88,2010.

平成 22 年度

1) Jo YJ, Sonoda KH, Oshima Y, Takeda A, Kohno R, Yamada J, Hamuro J, Yang Y, Notomi S, Hisatomi T, Ishibashi T.: Establishment of a new animal model of focal subretinal fibrosis that resembles disciform lesion in advanced age-related macular degeneration. *Invest Ophthalmol Vis Sci*. 51, 2010. in press

2) Uchida Y, Sugiura S, Ando F, Shimokata H, Nakashima T: Association of the C677T polymorphism in the methylenetetrahydrofolate reductase gene with sudden sensorineural hearing loss. *Laryngoscope*. 120(4):791-5. 2010.

3) Sugiura S, Uchida Y, Nakashima T, Ando F, Shimokata H: The association between gene polymorphisms in uncoupling proteins and hearing impairment in Japanese elderly. *Acta Oto-Laryngologica*. 130(4):487-92. 2010.

4) Uchida Y, Sugiura S, Nakashima T, Ando F, Shimokata H: The Ala54Thr polymorphism in the fatty acid-binding protein 2 (FABP2) gene is associated with hearing impairment: A preliminary report. *Auris Nasus Larynx*. 37(4):496-9. 2010

5) Uchida Y, Sugiura S, Ando F, Nakashima T, Shimokata H: Diabetes reduces auditory sensitivity in middle age listeners more than in elderly listeners: A population-based study of age-related hearing loss. *Medical Science Monitor*. 16(7): PH63-68. 2010

6) Yoshioka M, Uchida Y, Sugiura S, Ando F, Shimokata H, Nomura H, Nakashima T: The impact of arterial sclerosis on hearing with and without occupational noise exposure; a population-based aging study in males. *Auris Nasus Larynx*. 37:558-564. 2010

7) Uchida Y, Sugiura S, Ando F, Nakashima T, Shimokata H: Molecular genetic epidemiology of age-related hearing impairment. *Auris Nasus Larynx*. in press. 2011

8) Furuta T, Teranishi M, Uchida Y, Nishio N, Kato K, Otake H, Yoshida T, Tagaya M, Suzuki H, Sugiura M, Sone M, Hiramatsu M, Sugiura S, Ando F, Shimokata H, Nakashima T: Association of Interleukin-1 Gene polymorphisms with Sudden Sensorineural Hearing Loss and Ménière's disease. *International Journal of Immunogenetics*. in press. 2011

9) Uchida Y, Sugiura S, Ando F, Nakashima T, Shimokata H: Hearing impairment risk and interaction of folate metabolism related gene polymorphisms in an aging study. *BMC Medical Genetics*. in press. 2011

1 0) 内田育恵: 診断の指針・治療の指針 “加齢性難聴の疫学”総合臨床. 131-132, 2011

1 1) 杉浦彩子、内田育恵、下方浩史、安藤富士子、中島務:地域在住中高年者における

難聴と酸化ストレス関連遺伝子に関する縦断的疫学検討. *Otology Japan*. in press. 2011

1 2) Furuta T, Teranishi M, Uchida Y, Nishio N, Kato K, Otake H, Yoshida T, Tagaya M, Suzuki H, Sugiura M, Sone M, Hiramatsu M, Sugiura S, Ando F, Shimokata H, Nakashima T: Association of Interleukin-1 Gene polymorphisms with Sudden Sensorineural Hearing Loss and Ménière's disease. *International Journal of Immunogenetics*. in press. 2011

1 3) Tagaya M, Yamazaki M, Teranishi M, Naganawa S, Yoshida T, Otake H, Nakata S, Sone M, Nakashima T (2011): Endolymphatic hydrops and blood-labyrinth barrier in Ménière's disease. *Acta Otolaryngol*, in press.

1 4) Suzuki H, Teranishi M, Naganawa S, Nakata S, Sone M, Nakashima T (2011) Contrast-enhanced MRI of the inner ear after intratympanic injection of meglumine gadopentetate or gadodiamide hydrate. *Acta Otolaryngol* 131:130-135.

1 5) Tagaya M, Teranishi M, Naganawa S, Iwata T, Yoshida T, Otake H, Nakata S, Sone M, Nakashima T (2010): 3 Teslamagnetic resonance imaging obtained 4 hours after intravenous gadolinium injection in patients with suddendeafness. *Acta Otolaryngol* 130:665-669.

1 6) Yamamoto M, Teranishi M, Naganawa S, Otake H, Sugiura M, Iwata T, Yoshida T, Katayama N, Nakata S, Sone M, Nakashima T (2010) :Relationship between the degree of endolymphatic hydrops and electrocochleography. *Audiol Neurootol* 15:254-260.

1 7) Katayama N, Yamamoto M, Teranishi M, Naganawa S, Nakata S, Sone M, Nakashima T (2010): Relationship between endolymphatic hydrops and vestibular-evoked myogenic potential. *Acta Otolaryngol* 130:917-923.

1 8) Nakashima T, Naganawa S, Teranishi M, Tagaya M, Nakata S, Sone M, Otake H, Kato K, Iwata T, Nishio N (2010) Endolymphatic hydrops revealed by intravenous gadolinium injection in patients with Meniere's disease. *Acta Otolaryngol* 130:338-343.

1 9) Sone M, Naganawa S, Teranishi M, Nakata S, Katayama N, Nakashima T (2010) Changes in endolymphatic hydrops in a patient with Meniere's disease observed using magnetic resonance imaging. *Auris Nasus Larynx* 37:220-222.

2 0) Nakashima T, Naganawa S, Sone M, Teranishi M, Kawauchi H (2010) Round window surgery. *Otol Neurotol* 31:549-550; author reply 550.

2 1) Nakata S, Mizuno T, Naganawa S, Sugiura M, Yoshida T, Teranishi M, Sone M, Nakashima T (2010) 3D-FLAIR MRI in facial nerve paralysis with and without audio-vestibular disorder. *Acta Otolaryngol* 130:632-636.

2 2) Takahashi A, Ito Y, Iguchi Y, Yasuma TR, Ishikawa K, Terasaki H. Axial length increases and related changes in highly myopic normal eyes with myopic complications in fellow eyes. *Retina* 2011 in press

2 3) Ishikawa K, Nishihara H, Ozawa S, Piao CH, Ito Y, Kondo M, Terasaki H. Focal macular electroretinograms after photodynamic therapy combined with intravitreal bevacizumab. *Graefes*

Arch Clin Exp Ophthalmol 2011 in press

2 4) Yasuda S, Kondo M, Kachi S, Ito Y, Terui T, Ueno S, Terasaki H. Rebound of macular edema after intravitreal bevacizumab therapy in eyes with macular edema secondary to branch retinal vein occlusion. Retina 2011 in press

2 5) Terui T, Kondo M, Sugita T, Ito Y, Kondo N, Ota I, Miyake K, Terasaki H. Changes in the area of capillary nonperfusion before and after intravitreal injection of bevacizumab in eyes with branch retinal vein occlusion. Retina 2011 in press

2 6) Kataoka K, Nishiguchi KM, Kaneko H, van Rooijen N, Kachi S, Terasaki H. The roles of vitreal macrophages and circulating leukocytes in retinal neovascularization. Invest Ophthalmol Vis Sci 2011 in press

2 7) Nishiguchi KM, Kataoka K, Kachi S, Komeima K, Terasaki H. Regulation of pathologic retinal angiogenesis and inhibition of VEGF-VEGFR2 binding by soluble heparan sulfate. PLoS ONE 20;5(10):e13493, 2010

2 8) Yokoyama D, Machida S, Kondo M, Terasaki H, Nishimura T, Kurosaka D. Pharmacological dissection of multifocal electroretinograms of rabbits with Pro347Leu rhodopsin mutation. Jpn J Ophthalmol 54(5):458-66, 2010

2 9) Komeima K, Ito Y, Nakamura M, Terasaki H. Inner retinal cleavage associated with idiopathic epiretinal membrane. Retinal Cases & Brief Reports. 4 (2):132-4, 2010

3 0) Kondo M, Mokuno K, Uemura A, Kachi S, Nakamura M, Kondo A, Terasaki H. Paraneoplastic retinopathy associated with retroperitoneal liposarcoma. Clin Ophthalmol 4:243-5, 2010

3 1) Kachi S, Kobayashi K, Ushida H, Ito Y, Kondo M, Terasaki H. Regression of macular edema secondary to branch retinal vein occlusion during anti-TNF-therapy for rheumatoid arthritis. Clin Ophthalmol 4:667-70, 2010

3 2) Kurotsuchi A, Murakumo Y, Jujuwa M, Kurokawa K, Itoh Y, Kodama Y, Kato T, Enomoto A, Asai N, Terasaki H, Takahashi M. Analysis of DOK-6 function in downstream signaling of RET in human neuroblastoma cells. Cancer Sci 101(5): 1147-55, 2010

3 3) Fujii Y, Kachi S, Ito A, Kawasumi T, Honda H, Terasaki H. Transfer of gene to human retinal pigment epithelial cells using magnetite cationic liposomes. Br J Ophthalmol 94(8):1074-7, 2010

3 4) Yasuda C, Ueno S, Kondo M, Kondo N, Piao CH, Terasaki H. Analyses of ERG in a patient with intraocular lymphoma. Clin Ophthalmol 4:301-6, 2010

3 5) Hatta Y, Ishikawa K, Nishihara H, Ozawa S, Ito Y, Terasaki H. Effect of photodynamic therapy alone or combined with posterior subtenon triamcinolone acetonide or intravitreal bevacizumab on choroidal perfusion. Retina 30(3):495-502, 2010

3 6) Yasuma TR, Nakamura M, Nishiguchi KM, Kikuchi M, Kaneko H, Niwa T, Hamajima N,

Terasaki H. Elevated C-reactive protein levels and ARMS2/HTRA1 gene variants in subjects without age-related macular degeneration. *Mol Vis* 16:2923-30, 2010

3 7) Ueta M, Sotozono C, Nakano M, Taniguchi T, Yagi T, Tokuda Y, Fuwa M, Inatomi T, Yokoi N, Tashiro K, Kinoshita S. Association between prostaglandin E receptor 3 polymorphisms and Stevens-Johnson syndrome identified by means of a genome-wide association study. *J. Allergy Clin. Immunol.*,2010 126: 1218-1225

3 8) Ueta M, Mizushima K, Yokoi N, Naito Y, Kinoshita S. Gene-expression analysis of polyI:C-stimulated primary human conjunctival epithelial cells. *Br J Ophthalmol.* 2010 Nov;94(11):1528-32.

3 9) Ueta M, Mizushima K, Yokoi N, Naito Y, Kinoshita S. Gene-expression analysis of polyI:C-stimulated primary human conjunctival epithelial cells. *Br J Ophthalmol.* 2010 Nov;94(11):1528-32.

4 0) Fukuoka H, Kawasaki S, Yamasaki K, Matsuda A, Fukumoto A, Murakami A, Kinoshita S. Lattice corneal dystrophy type IV (p.Leu527Arg) is caused by a founder mutation of the TGFBI gene in a single Japanese ancestor. *Invest Ophthalmol Vis Sci.* 2010 Sep;51(9):4523-30.

4 1) Imai K, Hamaguchi M, Mori K, Takeda N, Fukui M, Kato T, Kawahito Y, Kinoshita S, Kojima T. Metabolic syndrome as a risk factor for high-ocular tension. *Int J Ophthalmol (Lond).* 2010 Jul;34(7):1209-17.

4 2) Miyanaga M, Sugita S, Shimizu N, Morio T, Miyata K, Maruyama K, Kinoshita S, Mochizuki M. A significant association of viral loads with corneal endothelial cell damage in cytomegalovirus anterior uveitis. *Br J Ophthalmol.* 2010 Mar;94(3):336-40.

4 3) Ueta M, Mizushima K, Yokoi N, Naito Y, Kinoshita S. Expression of the interleukin-4 receptor alpha in human conjunctival epithelial cells. *Br J Ophthalmol.* 2010 Sep;94(9):1239-43.

4 4) Ueta M, Kawai T, Yokoi N, Akira S, Kinoshita S. Contribution of IPS-1 to polyI:C-induced cytokine production in conjunctival epithelial cells. *Biochemical and Biophysical Research.* 2011 (404) 419-42

4 5) Ueta M, Sotozono C, Yokoi N, Inatomi T, Kinoshita S. Prostaglandin E Receptor 4 Expression in Human Conjunctival Epithelium and Its Downregulation in Devastating Ocular Surface Inflammatory Disorders. *Arch Ophthalmol.* 2010 128 (10), 1369-1371

4 6) Kinoshita S, Ueta M. Innate Immunity of the Ocular Surface. *Jpn J Ophthalmol* 2010;54:194-198

4 7) Ueta M, Kinoshita S. Ocular Surface Inflammation Mediated by Innate Immunity. *Eye & Contact Lens.* 2010 Vol36, (5), September 2010

- 48) 池田陽子、中野正和、田代 啓、森 和彦、木下 茂. 緑内障の検査診断学. 3. 遺伝子診断. 眼科. 53(2):207-220, 2010
- 49) 木下 茂、小泉範子、外園千恵、中村隆宏、稲富勉、上田真由美、川崎 諭、山田潤、横井則彦、上野盛夫、丸山和一、奥村直毅、伴由利子、西崎暁子、関山英一、永田真帆、中司美奈、東原尚代、鈴木智、佐野洋一郎、山崎健太、谷岡秀敏、高橋浩昭、岡野明、羽室淳爾、Andrew J. Quantock、Nigel J. Fullwood. 角膜疾患の未来医療. 日本眼科学会雑誌 114(3) : 161-199, 2010
- 50) 中野正和, 田代啓. 大規模シーケンサー解析用ヒトゲノム標的配列濃縮法, 実験医学, 28(19), 2010.
- 51) Yamashita T, Hikosaka K, Nanba T, Tabuchi A: Electroencephalogram analysis regarding visual information processing in a grapheme-color synesthete. *Kawasaki Journal of Medical Welfare*. 16 (1), 9-17, 2010.
- 52) Maeda F, Tabuchi A, Kani K, Kawamoto K, Yoneda T, Yamashita T: Influence of 3-dimensional image viewing on visual function. *Japanese Journal of Ophthalmology*. 2011. in press
- 53) 三田哲大, 原平八郎, 可児一孝, 田淵昭雄: 統計解析を用いた視力測定. 視覚の科学. 31 (1): 19-25, 2010.
- 54) 河本健一郎, 和気典二, 安間哲史, 田淵昭雄, 可児一孝: 2色覚者の混同色軌跡方向の色分類と実効輝度. 日本色彩学会誌. 34 Supplement: 110-111, 2010.
- 55) 横山知子, 田淵昭雄, 高橋伸方, 小寺亜矢, 坂本朋子, 高杉瑞恵, 細木瑞穂, 池田政憲, 木内良明: RetCam を用いた未熟児網膜症の遠隔診療. 臨床眼科. 64 (7): 1091-1094, 2010.
- 56) 山下力, 家木良彰, 後藤克聡, 春石和子, 桐生純一, 田淵昭雄: 上下半視野異常を有する早期緑内障眼のスペクトラルドメイン光干渉断層計による検討. 臨床眼科. 64 (6): 869-875, 2010.
- 57) 田淵昭雄: 第10回日本ロービジョン学会・特別講演「日本ロービジョン学会10年の歩みと展望」. 眼科臨床紀要 3 (6), 592-597, 2010.
- 58) 鈴木優介, 福島省吾, 前田史篤, 可児一孝, 田淵昭雄: パナソニック電工における人間生活工学の取組み例 (2) 眼精疲労軽減を目指した新しい視覚呈示方法の開発. 平成22年度日本人間工学会関西支部大会 講演論文集. 55-56, 2010.
- 59) 前田史篤, 可児一孝, 田淵昭雄: 3D に対する眼位の潜在的諸問題. 3D 映像. 24 (4): 12-13, 2010.
- 60) Kawaji T, Ando Y, Ando E, Sandgren O, Suhr OB, Tanihara H. Transthyretin-related vitreous amyloidosis in different endemic areas. *Amyloid*. 2010 Sep;17(3-4):105-8.
- 61) Suzuki M, Meguro A, Ota M, Nomura E, Kato T, Nomura N, Kashiwagi K, Mabuchi F, Iijima H, Kawase K, Yamamoto T, Nakamura M, Negi A, Sagara T, Nishida T, Inatani M, Tanihara H, Aihara M, Araie M, Fukuchi T, Abe H, Higashide T, Sugiyama K, Kanamoto T, Kiuchi Y, Iwase A, Ohno S, Inoko H, Mizuki N. Genotyping HLA-DRB1 and HLA-DQB1 alleles in Japanese

patients with normal tension glaucoma. *Mol Vis*. 2010 Sep 15;16:1874-9.

6 2) Hara R, Inomata Y, Kawaji T, Sagara N, Inatani M, Fukushima M, Tanihara H. Suppression of choroidal neovascularization by N-acetyl-cysteine in mice. *Curr Eye Res*. 2010 Nov;35(11):1012-20.

6 3) Inoue T, Kagawa T, Inoue-Mochita M, Isono K, Ohtsu N, Nobuhisa I, Fukushima M, Tanihara H, Taga T. Involvement of the Hipk family in regulation of eyeball size, lens formation and retinal morphogenesis. *FEBS Lett*. 2010 Jul 16;584(14):3233-8.

6 4) Takihara Y, Inatani M, Kawaji T, Fukushima M, Iwao K, Iwao M, Tanihara H. Combined Intravitreal Bevacizumab and Trabeculectomy With Mitomycin C Versus Trabeculectomy With Mitomycin C Alone for Neovascular Glaucoma. *J Glaucoma*, in press.

6 5) Murakami K, Meguro A, Ota M, Shiota T, Nomura N, Kashiwagi K, Mabuchi F, Iijima H, Kawase K, Yamamoto T, Nakamura M, Negi A, Sagara T, Nishida T, Inatani M, Tanihara H, Aihara M, Araie M, Fukuchi T, Abe H, Higashide T, Sugiyama K, Kanamoto T, Kiuchi Y, Iwase A, Ohno S, Inoko H, Mizuki N. Analysis of microsatellite polymorphisms within the GLC1F locus in Japanese patients with normal tension glaucoma. *Mol Vis*. 2010 Mar 17;16:462-6.

6 6) Hara R, Kawaji T, Inomata Y, Tahara J, Sagara N, Fukushima M, Tanihara H. Photodynamic therapy alone versus combined with intravitreal bevacizumab for neovascular age-related macular degeneration without polypoidal choroidal vasculopathy in Japanese patients. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol*. 2010 Jul;248(7):931-6.

6 7) Hara R, Kawaji T, Ando E, Ohya Y, Ando Y, Tanihara H. Impact of liver transplantation on transthyretin-related ocular amyloidosis in Japanese patients. *Arch Ophthalmol*. 2010 Feb;128(2):206-10

6 8) 木下茂, 外園千恵, 稲富勉, 川崎諭, 横井則彦, 上野盛夫, 丸山和一, 奥村直毅, 伴由利子, 西崎暁子, 関山英一, 永田真帆, 中司美奈, 東原尚代, 鈴木智, 佐野洋一郎, 山崎健太, 羽室淳爾, 小泉範子, 中村隆宏, 上田真由美, 山田潤, 谷岡秀敏, 高橋浩昭, 岡野明, QUANTOCK Andrew J., FULLWOOD Nigel J., 西田幸二, 田代啓, 中野正和, 八木知人, 不破正博, 鳥居隆三, 成宮周, 松岡俊行, 審良静男: 角膜疾患の未来医療. *日本眼科学会雑誌*. 114(3): 161-199, 2010..

2. 学会発表

平成 21 年度

1) 寺井和都, 山田潤, 木村健一, 長谷川謙介, 木下茂: 新しい角膜剛性測定法における精度の検討. 第 63 回日本臨床眼科学会, 福岡, 2009 年 10 月 10 日

2) 水上まゆみ・山田潤・矢野忠: 鍼治療による眼循環改善—緑内障へのアプローチ—. 第 26 回日本眼循環学会, 名古屋. 2009 年 12 月 4 日

3) 寺井和都, 山田潤, 木村健一, 長谷川謙介, 木下茂: 新しい角膜剛性測定法における 2

種類の計算法の妥当性の検討. 第 34 回角膜カンファレンス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 11 日

4) 内田育恵, 杉浦彩子, 中島務: メチレンテトラヒドロ葉酸還元酵素およびメチオニンシンターゼ遺伝子多型と中高齢者の聴力について. 第 19 回日本耳科学会総会・学術講演会, 東京, 2009 年 10 月 9 日

5) 杉浦彩子, 内田育恵, 中島務: UCP 遺伝子多型と聴力ー老化に関する長期縦断疫学研究より. 第 19 回日本耳科学会総会・学術講演会, 東京, 2009 年 10 月 9 日

6) 内田育恵, 中島務: 地域住民における糖代謝異常と聴力の関係ー糖尿病受療者を除いた検討ー. 第 54 回日本聴覚医学会総会・学術講演会, 横浜, 2009 年 10 月 23 日

7) 津田玲生: ショウジョウバエを用いた加齢性感覚器障害の発症メカニズム解析. 第 32 回日本分子生物学会年会ワークショップ, 横浜, 2009 年 12 月 10 日

8) 寺西正明, 中島務: C57/BL6 マウス蝸牛における酸化ストレスマーカーの加齢変化の検討. 第 3 回聴覚アンチエイジング研究会, 東京, 2009 年 7 月 3 日

9) 寺西正明, 中島務: C57BL/6 マウス蝸牛における酸化ストレスマーカーの加齢変化の検討. 第 28 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 福井, 2010 年 2 月 18-20 日

1 0) 寺西正明, 中島務: C57/BL6 マウス蝸牛における酸化ストレスマーカーの加齢変化の検討. 第 3 回聴覚アンチエイジング研究会, 東京, 2009 年 7 月 3 日

1 1) 寺西正明, 中島務: C57BL/6 マウス蝸牛における酸化ストレスマーカーの加齢変化の検討. 第 28 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 福井, 2010 年 2 月 18-20 日

1 2) 寺崎浩子: 良好な視機能を目指した網膜硝子体手術の検証. 第 33 回日本手術学会総会会長企画シンポジウム, 東京, 2010 年 1 月 23 日

1 3) 寺崎浩子: 糖尿病網膜症の硝子体手術. 第 33 回日本手術学会総会教育セミナー, 東京, 2010 年 1 月 22 日

1 4) 寺崎浩子: Macular functional analysis in the age-related macular degeneration treated with surgery, PDT and combined therapy. 4th Congress of Asia-Pacific Vitreo-Retina Society (APVRS), TAIPEI, 2009 年 11 月 13 日

1 5) 寺崎浩子: 硝子体手術の適応と術式. 第 63 回日本臨床眼科学会シンポジウム, 福岡市, 2009 年 10 月 12 日

1 6) Shigeru Kinoshita: Corneal Endothelium in refractive surgery. 27th congress of the European Society of Cataract & Refractive Surgeons, Barcelona, 2009.9.12.

1 7) Shigeru Kinoshita: Surgical Skill in Cataract & Refractive. 5th International Meeting on Advanced Cataract & Refractive Surgery, Seoul, 2009.9.26.

1 8) Shigeru Kinoshita. Ocular Surface Reconstruction. 26th Biennial Cornea Research Conference, Boston, 2009.10.10.

1 9) Shigeru Kinoshita: The Corneal Infiltrate. 2009 Joint Meeting of the American Academy of Ophthalmology and the Pan-American Association of Ophthalmology, San Francisco, 2009.10.26

2 0) Shigeru Kinoshita: Translational Research Can Create New Therapeutic Modalities for Challenging Ocular Diseases. 2009 Joint Meeting of the American Academy of Ophthalmology and the Pan –Aerican Association of Ophthalmology, San Francisco, 2009.10.26

2 1) Shigeru Kinoshita: Four Different Therapeutic Modalities for Devastating Ocular Surface Disorders. Case Reports Conference Network, Poznan, 2009.11.13

2 2) 上野盛夫, 佐々木美帆, 丸山和一, 池田陽子, 森和彦, 木下茂: 高眼圧により上方視神経部分低形成 (SSOH) 様の視神経乳頭変化をきたした一例. 第 115 回京都眼科学会, 京都, 2009 年 9 月 7 日

2 3) 池田陽子, 森和彦, 上野盛夫, 木下茂, 八木知人, 中野正和, 大見奈津江, 田中雅美, 徳田雄市, 不破正博, 大橋沙矢佳, 斉藤直子, 吉井健吾, 田代啓: 緑内障早期診断・早期治療のための疾患マーカー-SNPs 解析. 第 115 回京都眼科学会, 京都, 2009 年 9 月 7 日

2 4) 外園千恵, 上田真由美, 関山英一, 八木知人, 不破正博, 田代啓, 木下茂: 急性期 Stevens-Johnson 症候群の涙液および血清中サイトカインの網羅的定量. 第 63 回日本臨床眼科学会, 福岡, 2009 年 10 月 10 日

2 5) 中村隆宏, 稲富勉, 外園千恵, 小泉範子, 木下茂: 難治性眼表面疾患に対する自己培養角膜上皮移植術の長期臨床成績. 第 63 回日本臨床眼科学会, 福岡, 2009 年 10 月 10 日

2 6) 稗田牧, 木下茂, 脇舂耕一, 足立紘子, 中司美奈, 中村葉: Phototherapeutic keratectomy (PTK) の長期予後. 第 63 回日本臨床眼科学会, 福岡, 2009 年 10 月 10 日

2 7) 小室青, 横井則彦, 木下茂: Sjogren 症候群患者に対するピロカルピン塩酸塩内服単回投与の効果の検討. 第 63 回日本臨床眼科学会, 福岡, 2009 年 10 月 10 日

2 8) 上田幸典, 渡辺彰英, 横井則彦, 脇舂耕一, 荒木美治, 木村直子, 木下茂: 涙道閉塞部位と流涙症状との関連. 第 63 回日本臨床眼科学会, 福岡, 2009 年 10 月 10 日

2 9) 脇舂耕一, 渡辺彰英, 上田幸典, 木村直子, 荒木美治, 稗田牧, 木下茂. TS-1 による涙道閉塞症での涙嚢壁の病理組織学的検討. 第 63 回日本臨床眼科学会, 福岡, 2009 年 10 月 10 日

3 0) 木村直子, 中村芳子, 渡辺彰英, 鈴木一隆, 豊田晴義, 袴田直俊, 木下茂. 瞬目高速解析装置による高齢者と若年者における連続随意瞬目の比較. 第 63 回日本臨床眼科学会, 福岡, 2009 年 10 月 10 日

3 1) 古泉英貴, 木下茂: 滲出型加齢黄斑変性における中心窩下脈絡膜厚の計測. 第 63 回日本臨床眼科学会, 福岡, 2009 年 10 月 10 日

3 2) 上野盛夫, 佐々木美帆, 丸山和一, 池田陽子, 森和彦, 木下茂: 高眼圧により上方視神経部分低形成 (SSOH) 様の視神経乳頭変化をきたした一例. 第 63 回日本臨床眼科学会, 福岡, 2009 年 10 月 11 日

3 3) 池田陽子, 高橋純子, 森和彦, 上野盛夫, 斎田孝彦, 木下茂: 多発性硬化症の病型別網膜神経線維厚減少量の検討. 第 63 回日本臨床眼科学会, 福岡, 2009 年 10 月 11 日

3 4) 足立紘子, 稗田牧, 稲富勉, 岩間亜矢子, 北澤耕司, 脇舂耕一, 山村陽, 木下茂: 角

膜内皮移植と白内障同時手術における眼内レンズ度数選択. 第 63 回日本臨床眼科学会, 福岡, 2009 年 10 月 11 日

3 5) 近藤衣里, 渡辺彰英, 脇舛耕一, 上田幸典, 木村直子, 荒木美治, 木下茂: 涙道閉塞と習慣的プール利用の関係. 第 63 回日本臨床眼科学会, 福岡, 2009 年 10 月 11 日

3 6) 田中寛, 丸山和一, 安原徹, 永田健児, 丸山悠子, 水野連太郎, 木下茂: 早期治療により改善を認めた小児発症の急性網膜壊死 (ARN) の 1 例. 第 63 回日本臨床眼科学会, 福岡, 2009 年 10 月 11 日

3 7) 永田健児, 丸山和一, 小嶋健太郎, 稲富勉, 杉田直, 木下茂: 全層角膜移植後眼に急性網膜壊死を発症した一例. 第 63 回日本臨床眼科学会, 福岡, 2009 年 10 月 11 日

3 8) 丸山和一, 杉田直, 中井義秀, 中森良樹, 森尾友宏, 望月学, 木下茂: 眼内液 MultiplexPCR システムにより胃悪性リンパ腫を発見出来た一例. 第 63 回日本臨床眼科学会, 福岡, 2009 年 10 月 11 日

3 9) 山村陽, 脇舛耕一, 北澤耕司, 足立紘子, 岩間亜矢子, 稗田牧, 中井義典, 森井勇介, 中村葉, 木下茂: フェムトセカンドレーザーで異なるフラップ厚を作製して施行した LASIK の術後成績. 第 63 回日本臨床眼科学会, 福岡, 2009 年 10 月 11 日

4 0) 畑中宏樹, 古泉英貴, 木下茂: 光線地力学的療法後に重篤な網膜血管閉塞をきたした 1 例. 第 63 回日本臨床眼科学会, 福岡, 2009 年 10 月 11 日

4 1) 上野盛夫, 池田陽子, 今井浩二郎, 森和彦, 木下茂: 京滋地区における過去 3 年間の緑内障薬物処方パターンの変化の検討. 第 20 回日本緑内障学会, 那覇, 2009 年 11 月 13 日

4 2) 池田陽子, 森和彦, 上野盛夫, 今井浩二郎, 八木知人, 大見奈津江, 徳田雄市, 不破正博, 田代啓, 木下茂: 原発開放隅角緑内障の疾患マーカー SNPs 解析. 第 20 回日本緑内障学会, 那覇, 2009 年 11 月 13 日

4 3) 今井浩二郎, 森和彦, 池田陽子, 上野盛夫, 木村健一, 木下茂: 血液生化学データによる落屑緑内障と全身疾患との関連性の検討. 第 20 回日本緑内障学会, 那覇, 2009 年 11 月 13 日

4 4) 高橋佳奈子, 池田陽子, 森和彦, 上野盛夫, 今井浩二郎, 近藤衣里, 吉村彰紘, 木下茂: 網膜神経線維層厚解析装置による原発開放隅角緑内障の長期経過観察. 第 20 回日本緑内障学会, 那覇, 2009 年 11 月 13 日

4 5) 吉村彰紘, 池田陽子, 森和彦, 上野盛夫, 今井浩二郎, 近藤衣里, 高橋佳奈子, 木下茂: 原発開放隅角緑内障の視神経乳頭形状解析装置による長期経過観察例の検討. 第 20 回日本緑内障学会, 那覇, 2009 年 11 月 13 日

4 6) 田中寛, 森和彦, 古泉英貴, 池田陽子, 上野盛夫, 今井浩二郎, 木下茂: スペクトラムドメイン OCT 深部強調画像法による眼圧変動に伴う脈絡膜厚変化の検討. 第 20 回日本緑内障学会, 那覇, 2009 年 11 月 13 日

4 7) 丸山悠子, 森和彦, 池田陽子, 上野盛夫, 今井浩二郎, 木下茂: 前眼部 OCT による前房隅角形状の定量的加齢変化の検討. 第 20 回日本緑内障学会, 那覇, 2009 年 11 月 13 日

48) 吉川晴菜, 池田陽子, 外園千恵, 森和彦, 上野盛夫, 今井浩二郎, 木下茂: 小児先天角膜混濁症例の眼圧, 臨床所見とUBM所見の關係. 第20回日本緑内障学会, 那覇, 2009年11月13日

49) 近藤衣里, 森和彦, 池田陽子, 上野盛夫, 今井浩二郎, 木下茂: 緑内障患者に対するプロスタグランジン製剤単独療法とチモロール/ドルゾラミド併用療法の比較検討. 第20回日本緑内障学会, 那覇, 2009年11月13日

50) 木村直子, 渡辺彰英, 中村芳子, 鈴木一隆, 豊田晴義, 袴田直俊, 木下茂: 瞬目高速解析装置を用いた高齢者と若年者における瞬目の比較. 第24回日本眼窩疾患シンポジウム, 金沢, 2009年11月21日

51) 池田陽子, 森和彦, 上野盛夫, 今井浩二郎, 近藤衣里, 木下茂: 線維柱帯切除術後早期の眼圧季節変動の検討. 第33回日本眼科手術学会総会, 東京, 2010年1月22日

52) 上野盛夫, 森和彦, 池田陽子, 今井浩二郎, 木下茂: 抗緑内障薬上市前後における線維柱帯切開術適応症例の臨床背景と眼圧経過の検討. 第33回日本眼科手術学会総会, 東京, 2010年1月22日

53) 岩間重矢子, 稗田牧, 足立紘子, 北澤耕司, 脇舛耕一, 山村陽, 稲富勉, 外園千恵, 木下茂: 角膜再移植例の検討. 第33回日本眼科手術学会, 東京, 2010年1月22日

54) 上田幸典, 渡辺彰英, 横井則彦, 木下茂: 涙嚢摘出術の奏功した慢性涙嚢炎を伴う重症ドライアイの症例. 第33回日本眼科手術学会, 東京, 2010年1月22日.

55) 加藤浩晃, 渡辺彰英, 上田幸典, 荒木美治, 木下茂: 眼窩骨折における受傷から手術までの日数と骨壁再建法の検討. 第33回日本眼科手術学会, 東京, 2010年1月22日

56) 脇舛耕一, 渡辺彰英, 上田幸典, 荒木美治, 稗田牧, 木下茂: 内反症、兔眼症を合併した癩痕性角結膜上皮症に対する口蓋粘膜移植術の有用性. 第33回日本眼科手術学会, 東京, 2010年1月23日

57) 小嶋健太郎, 小森秀樹, 古泉英貴, 安原徹, 木下茂, 米田一仁: 開放性眼外傷に対する硝子体手術の検討. 第33回日本眼科手術学会, 東京, 2010年1月23日.

58) 北澤耕司, 稗田牧, 中井義典, 脇舛耕一, 山村陽, 中村葉, 森井勇介, 木下茂: 動的回旋補正システムを用いたLASIK術後乱視矯正精度. 第33回日本眼科手術学会, 東京, 2010年1月23日.

59) 中井義典, 稗田牧, 山村陽, 中村葉, 森井勇介, 木下茂: 主として一般眼科診療を行っている施設における, 角膜屈折矯正手術の治療成績と受診率. 第33回日本眼科手術学会, 東京, 2010年1月23日.

60) 加藤弘明, 横井則彦, 木下茂: 前眼部光干渉断層計を用いたメニスコメトリー. 第34回角膜カンファランス・第26回日本角膜移植学会, 仙台, 2010年2月11日.

61) 横井則彦, 酒井利江子, 小室青, 木下茂, 水草豊: 角膜上の涙液油層伸展速度と涙液層破壊時間との関連. 第34回角膜カンファランス・第26回日本角膜移植学会, 仙台, 2010年2月11日.

6 2) 伴由利子, 辻本淳子, 上田真由美, 横井則彦, 木下茂: Poly:C 刺激によるヒト角結膜培養上皮の tightjunction 関連蛋白 mRNA の変化. 第 34 回角膜カンファレンス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 11 日.

6 3) 松田彰, 海老原伸行, 横井則彦, 木下茂, 村上晶: アレルギー性結膜炎の眼瞼巨大乳頭における IgE クラススイッチ. 第 34 回角膜カンファレンス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 11 日.

6 4) 上田真由美, 水島かつら, 横井則彦, 内藤裕二, 木下茂: PolyIC 刺激ヒト培養結膜上皮細胞の網羅的遺伝子発現解析. 第 34 回角膜カンファレンス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 11 日.

6 5) 外園千恵, 田中寛, 稲富勉, 上田真由美, 小泉範子, 中村隆宏, 横井則彦, 木下茂: 治療用ソフトコンタクトレンズ長期装用者の保菌と感染. 第 34 回角膜カンファレンス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 12 日.

6 6) 中村隆宏, 外園千恵, 真野幸子, 堀切智子, 小泉範子, 稲富勉, 木下茂: アロ培養角膜上皮移植後長期の組織表現型の解析. 第 34 回角膜カンファレンス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 12 日.

6 7) 稗田牧, 木下茂, 足立紘子, 脇舛耕一, 北澤耕司, 岩間亜矢子: フェムトセカンドレーザーを利用した表層および全層角膜移植の術後成績. 第 34 回角膜カンファレンス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 12 日.

6 8) 谷岡秀敏, 足立紘子, 川崎諭, 稗田牧, 稲富勉, 木下茂: 移植用ドナー角膜内皮細胞層における死細胞比率の検討. 第 34 回角膜カンファレンス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 12 日.

6 9) 小泉範子, 奥村直毅, 高橋浩昭, 上野盛夫, 坂本雄二, 平田香菜, 羽室淳爾, 木下茂: 水疱性角膜症に対する Rho キナーゼ阻害剤を用いた培養角膜内皮細胞前房注入治療の試み. 第 34 回角膜カンファレンス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 12 日.

7 0) 稲富勉, 足立紘子, 森和彦, 谷岡秀敏, 稗田牧, 木下茂: 緑内障合併症例に対する角膜内皮移植の治療成績. 第 34 回角膜カンファレンス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 13 日.

7 1) 足立紘子, 稗田牧, 稲富勉, 岩間亜矢子, 北澤耕司, 脇舛耕一, 山村陽, 外園千恵, 横井則彦, 木下茂: 角膜内皮移植術後の内皮細胞密度の推移について. 第 34 回角膜カンファレンス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 13 日.

7 2) 小室青, 横井則彦, 菌村有紀子, 稲垣香代子, 東原尚代, 木下茂: 新しい涙点プラグ (スーパーイーグルプラグ: イーグルビジョン社) の短期使用成績. 第 34 回角膜カンファレンス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 12 日.

7 3) 菌村有紀子, 横井則彦, 小室青, 稲垣香代子, 東原尚代, 木下茂: 肉芽形成により部分脱出した涙点プラグの交換とその予後の検討. 第 34 回角膜カンファレンス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 11 日.

74) 山本雄士, 横井則彦, 東原尚代, 稲垣香代子, 菌村有紀子, 小室青, 木下茂: BUT 短縮型ドライアイの臨床的特徴. 第 34 回角膜カンファランス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 11 日.

75) 辻本淳子, 伴由利子, 上田真由美, 横井則彦, 木下茂: Poly:C 刺激によるヒト角結膜培養上皮のバリアー機能の変化の持続性. 第 34 回角膜カンファランス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 11 日.

76) 山本真弓, 奥村直毅, 高橋浩昭, 上野盛夫, 坂本雄二, 平田香菜, 木下茂, 小泉範子: 選択的 Rho キナーゼ阻害剤による角膜実質細胞の筋線維芽細胞への形質転換への影響. 第 34 回角膜カンファランス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 12 日.

77) 川崎諭, 福本暁子, 山崎健太, 福岡秀記, 谷岡秀敏, 木下茂: 格子状角膜ジストロフィー4型におけるアミロイド沈着の特徴. 第 34 回角膜カンファランス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 11 日.

78) 高橋浩昭, 小泉範子, 奥村直毅, 上野盛夫, 坂本雄二, 平田香菜, 羽室淳爾, 木下茂: ウサギ角膜内皮障害眼における選択的 Rho キナーゼ阻害剤点眼による創傷治癒効果の検討. 第 34 回角膜カンファランス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 12 日.

79) 脇舂耕一, 稗田牧, 足立紘子, 稲富勉, 木下茂: 角膜内皮移植と全層角膜移植における角膜不正乱視の比較. 第 34 回角膜カンファランス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 11 日.

80) 張佑子, 稲富勉, 外園千恵, 中村隆宏, 小泉範子, 木下茂: 小児の難治性眼表面疾患に対する培養粘膜上皮移植. 第 34 回角膜カンファランス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 12 日.

81) 竹田一徳, 稲富勉, 中村隆宏, 小泉範子, 外園千恵, 木下茂: 急性期眼表面疾患に対する自己培養口腔粘膜上皮移植術の臨床成績. 第 34 回角膜カンファランス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 11 日.

82) 田中寛, 外園千恵, 上田真由美, 稲富勉, 中村隆宏, 木下茂: 眼表面疾患患者の MRSA 保菌に関する検討. 第 34 回角膜カンファランス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 11 日.

83) 松本慎司, 横井則彦, 川崎諭, 木下茂: ソフトコンタクトレンズ装用で生じた難治性点状表層角膜症の 2 例. 第 34 回角膜カンファランス・第 26 回日本角膜移植学会, 仙台, 2010 年 2 月 11 日.

84) 木村直子, 中村芳子, 渡辺彰英, 鈴木一隆, 豊田晴義, 袴田直俊, 木下茂: 高齢者における眼瞼下垂症手術前後の自発性瞬目の検討. 第 33 回日本眼科手術学会, 東京, 2010 年 1 月 22 日

85) 徳田雄市, 池田陽子, 八木知人, 田中雅深, 不破正博, 大見奈津江, 中野正和, 谷口孝純, 吉井健悟, 森和彦, 景山正明, 長崎生光, 木下茂, 田代啓: ゲノムワイド関連解析による緑内障疾患関連候補遺伝子の探索. 第 82 回日本生化学会大会, 神戸, 平成 21 年 10 月 24 日

86) 田中雅深, 池田陽子, 八木知人, 徳田雄市, 不破正博, 大見奈津江, 中野正和, 谷口孝純, 森和彦, 吉井健悟, 景山正明, 木下茂, 田代啓: 疾患関連マーカーSNPs 同定のためのケースコントロール解析に供するイルミナカスタムチップによる SNP ジェノタイピング最適化. 第 82 回日本生化学会大会, 神戸, 平成 21 年 10 月 24 日

87) 橋本勇希, 前田史篤, 丹沢慶一, 瀧澤剛, 可児一孝, 田淵昭雄: ゴーグル型瞳孔視野計による緑内障性視野異常の他覚的検出. 第 50 回日本視能矯正学会, 東京, 2009 年 10 月 17 日

88) Tanzawa K, Maeda F, Takizawa G, Kiyokawa Y, Hashimoto Y, Yoneda T, Oka M, Kani K, Tabuchi A: Evaluating pupil light reflexes with three color stimuli of different of sizes and intensities under the same energy at each eccentricity of the visual field. 19th International Visual Field & Imaging Symposium, Tenerife, Spain, 2010 年 3 月 24 日

89) 笠岡奈々子, 井上俊洋, 稲谷大, 瀧原祐史, 岩尾美奈子, 谷原秀信: 緑内障手術既往眼へのトラベクレクトミーの術後予後因子の検討. 第 20 回日本緑内障学会, 沖縄, 2009 年 11 月 13 日

90) 井上俊洋, 稲谷大, 瀧原祐史, 笠岡奈々子, 岩尾美奈子, 谷原秀信: 硝子体切除術既往のあるトラベクレクトミー症例の予後因子の検討. 第 20 回日本緑内障学会, 沖縄, 2009 年 11 月 13 日

91) 瀧原祐史, 稲谷大, 井上俊洋, 岩尾圭一郎, 岩尾美奈子, 笠岡奈々子, 谷原秀信: 血管新生緑内障に対する線維柱帯切除術予後不良群への術後ベバシズマブ硝子体内複数回投与の検討. 第 20 回日本緑内障学会, 沖縄, 2009 年 11 月 13 日

92) 岩尾美奈子, 稲谷大, 瀧原祐史, 岩尾圭一郎, 井上俊洋, 笠岡奈々子, 谷原秀信: 開放隅角緑内障に対するトラベクレクトミー単独手術と白内障同時手術との前向き比較研究. 第 20 回日本緑内障学会, 沖縄, 2009 年 11 月 13 日

93) Koizumi N: Cultivated corneal endothelial transplantation in a primate for the future clinical application of corneal endothelial regenerative medicine. The 9th Corneal Conference Cardiff, Cardiff, U.K., 2009 年 7 月

94) Koizumi N: Cultivated corneal endothelial transplantation in a primate for the future clinical application of corneal endothelial regenerative medicine. The 107th Congress of the German Society of Ophthalmology (DOG), Leipzig, Germany, 2009 年 9 月 24 日

95) 小泉範子: 角膜内皮再生医療の現状と展望. 第 115 回京都眼科学会(宿題報告), 京都, 2009 年 9 月 6 日

平成 22 年度

1) Terai K, Yamada J, Hasegawa K, Kimura K, Kinoshita S: The effects of TGF-beta signaling inhibitor in cat corneal endothelium. 82th Annual meeting of the ARVO (Association for Research in Vision and Ophthalmology). Fort Lauderdale. Florida. U.S.A. 2010.5.4

2) 山田潤: チオールレドックス理論を用いた、前眼部疾患の診断と治療. 第113回日本眼科学会総会,名古屋,2010.4.17.

3) 山田潤, 横井則彦, 羽室淳爾, 丸山光生, 寺井和都, 木下茂: ドライアイにおける結膜上皮障害と細胞内グルタチオンとの関連. 第35回日本角膜学会総会・第27回日本角膜移植学会, 東京, 2011.2.17

4) Yasue Uchida: Symposium 1, Presbycusis: Current knowledge obtained from a population-based study on aging in Japan. 13th Korea-Japan Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Seoul, September 10, 2010

5) 内田育恵, 杉浦彩子, 中島 務: 突発性難聴とPRKCH遺伝子多型の検討 - 『老化に関する長期縦断疫学研究』より - 第111回 日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 仙台, 2010年5月20日

6) 内田育恵, 杉浦彩子, 徳田治彦, 細井孝之: 糖尿病教育入院患者における聴力の評価. 第52回日本老年医学会学術集会, 神戸, 2010年6月26日

7) 内田育恵, 杉浦彩子, 寺西正明, 中島 務: 中高年糖尿病教育入院患者における聴力の評価. 第20回 日本耳科学会総会・学術講演会, 松山, 2010年10月9日

8) 杉浦彩子, 内田育恵, 下方浩史, 安藤富士子, 中島 務: Klotho 遺伝子多型と聴力-老化に関する長期縦断疫学研究より, 第20回 日本耳科学会総会・学術講演会, 松山, 2010年10月7日

9) 西尾直樹, 寺西正明, 内田育恵, 杉浦彩子, 安藤富士子, 下方浩史, 曾根三千彦, 大竹宏直, 加藤健, 吉田忠雄, 多賀谷満彦, 日比達也, 中島務: 補体因子Hと突発性難聴との関連について. 第20回 日本耳科学会総会・学術講演会, 松山, 2010年10月9日

10) 寺西正明, 内田育恵, 大竹宏直, 加藤健, 吉田忠雄, 多賀谷満彦, 杉浦彩子, 中島務: 血管内皮型NO合成酵素遺伝子多型と突発性難聴について. 第20回 日本耳科学会総会・学術講演会, 松山, 2010年10月9日

11) 山本浩志, 内田育恵, 杉浦彩子, 下方浩史, 安藤富士子, 中島 務: ファブリー病患者における加齢と聴力との関係. 第20回 日本耳科学会総会・学術講演会, 松山, 2010年10月7日

12) 山本浩志, 中島 務, 坪井一哉, 内田育恵, 下方浩史, 安藤富士子: ファブリー病における聴覚障害と健常者聴力の比較. 第52回日本先天代謝異常学会, 2010年10月

13) 内田育恵, 中島務: 中高年地域住民における難聴者割合の推移. 第55回日本聴覚医学会総会・学術講演会, 奈良, 2010年11月11日

14) 古田敏章, 杉浦真, 平松真理子, 寺西正明, 加藤 健, 鈴木秀典, 大竹宏直, 吉田忠雄, 鈴木宏和, 曾根三千彦, 中島務, 内田育恵, 杉浦彩子, 安藤富士子, 下方浩史, 西尾直樹, 多賀谷満彦: 突発性難聴とメニエール病におけるインターロイキン1遺伝子多型の関連. 第143回東海地方部会連合講演会, 岐阜, 2010年12月12日

15) Teranishi M, Suzuki H, Otake H, Nakashima T. Age-related changes of markers for

oxidative stress in the C57BL/6 mouse cochlea. XVth Anniversary Symposium in Audiological Medicine, Krakow, September 19-22, 2010.

1 6) Teranishi M, Suzuki H, Otake H, Nakashima T. Distribution of caveolin 1 in the mouse inner ear. Sixth International Symposium on Meniere's disease and Inner Ear Disorders, Kyoto, November 14-17, 2010.

1 7) Nakashima T, Naganawa S, Sone M, Teranishi M. Image evaluation of endolymphatic space in patients with Meniere's disease. Sixth International Symposium on Meniere's disease and Inner Ear Disorders, Kyoto, November 14-17, 2010.

1 8) Katayama N, Kato M, Fukunaga Y, Uchida Y, Sugiura S, Teranishi M, Sone M, Nakashima T. Posturography, and audiometry in patients with diabetes mellitus. Sixth International Symposium on Meniere's disease and Inner Ear Disorders, Kyoto, November 14-17, 2010.

1 9) 寺西正明, 加藤 健, 大竹宏直, 片山直美, 曾根三千彦, 中島 務: 突発性難聴に対するデキサメサゾン鼓室内注入療法の効果. 第 55 回日本聴覚医学会総会・学術講演会, 奈良, 2010 年 11 月 11 日

2 0) 寺西正明, 中島 務: 加齢マウスにおける蝸牛プロテオミクス解析. 第 29 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 大分, 2011 年 2 月 12 日

2 1) 加地秀: 網膜色素上皮へのアミロイドβ負荷と小胞体ストレス. 第 49 回日本網膜硝子体学会総会. 大阪. 2010

2 2) 牛田宏昭: 糖尿病黄斑浮腫における眼内血管内皮増殖因子濃度と網膜電図. 第 16 回日本糖尿病眼学会総会 大阪. 2010

2 3) Ikeda Y, Mori K, Ueno M, Imai K, Yagi T, Omi N, Tokuda Y, Fuwa M, Tashiro K, Kinoshita S. Association Between General Systematic Disease and the Marker Snps for Primary Open-Angle Glaucoma. 2010 Annual Meeting of the ARVO (The Association for Research in Vision and Ophthalmology), Fort Lauderdale, Florida, U.S.A., 2010.5.3

2 4) Mori K, Tanaka H, Koizumi H, Ueno M, Ikeda Y, Imai K, Kinoshita S. Choroidal Thickness Evaluation Accompanied by In-traocular Pressure Change Using Enhanced Depth Imaging Optical Coherence Tomography. 2010 Annual Meeting of the ARVO (The Association for Research in Vision and Ophthalmology), Fort Lauderdale, Florida, U.S.A., 2010.5.4

2 5) Imai K, Mori K, Ueno M, Ikeda Y, Kawasaki S, Yagi T, Ohmi N, Fuwa M, Tashiro K, Kinoshita S. The Rs16958477 SNP in the Promoter Region of the LOXL1 Gene is Associated With the LOXL1 Gene Expression Level. 2010 Annual Meeting of the ARVO (The Association for Research in Vision and Ophthalmology), Fort Lauderdale, Florida, U.S.A., 2010.5.6

2 6) Yamamoto M, Okumura N, Takahashi H, Ueno M, Sakamoto Y, Liles M, Young RD, Quantock AJ, Kinoshita S, Koizumi N. The Effect of ROCK inhibitor on Corneal

Wound Healing and the Transformation of Keratocytes. BSMB Autumn Meeting 2010, Norwich, 2010.9.6-7

2 7) Ueno M, Ikeda Y, Imai K, Mori K, Kinoshita S. Clinical-based observational study of glaucoma patient distribution and drug preference in Japanese common clinic in 2009. 9th EGS Congress, Madrid, 2010.9.12-17

2 8) Mori K, Ikeda Y, Ueno M, Imai K, Kinoshita S. Long-term clinical outcomes of trabecu-otomy ab externo for the treatment of glaucoma after corneal transplantation. 9th EGS Congress, Madrid, 2010.9.12-17

2 9) Tada K, Ueno M, Mori K, Ikeda Y, Imai K, Kinoshita S. Three cases of lens-induced secondary glaucoma with combination mechanism which developed several years after cataract surgery. 9th EGS Congress, Madrid, 2010.9.12-17

3 0) Takahashi H, Koizumi N, Okumura N, Ueno M, Sakamoto Y, Hamuro J, Kinoshita S. The Efficacy of A ROCK Inhibi-tor Containing Corneal Storage Medium for Corneal Endothe-lial Cells.2010 Annual Meeting of the ARVO (The Association for Research in Vision and Ophthalmology), Fort Lau-der-dale, Florida, U.S.A., 2010.5.4

3 1) Okumura N, Koizumi N, Ueno M, Sakamoto Y, Takahashi H, Hirata K, Hamuro J, Kinoshita S. The Effect of a ROCK In-hibitor on Corneal Endothelial Cell Migration in an in vitro Wound-Healing Model. 2010 Annual Meeting of the ARVO (The Association for Research in Vision and Ophthalmology), Fort Lauderdale, Florida, U.S.A., 2010.5.4

3 2) Ueno M, Nakai Y, Matsumura M, Takahashi M, Sasai Y, Kis-noshita S. Induction of Ocular Tissues From Human Pluripo-tent Stem Cells on the Amniotic Membrane Matrix. 2010 Annu-al Meeting of the ARVO (The Association for Research in Vi-sion and Ophthalmology), Fort Lauderdale, Florida, U.S.A., 2010.5.4

3 3) Koizumi N, Okumura N, Ta-kahashi H, Ueno M, Sakamoto Y, Hirata K, Hamuro J, Kino-shita S. Cell-Injection Therapy Using Cultivated Corneal En-dothelial Cells Combined With a ROCK Inhibitor in a Rabbit Model. 2010 Annual Meeting of the ARVO (The Association for Research in Vision and Oph-thalmology), Fort Lauderdale, Florida, U.S.A., 2010.5.5

3 4) Ueta M, Sotozono C, Nakano M, Taniguchi T, Yagi T, Tokuda Y, Fuwa M, Inatomi T, Yokoi N, Tashiro K., Kinoshita S. Asso-ciation between prostaglandin E receptor 3 polymorphisms and Stevens-Johnson syndrome with ocular involvement identi-fied by genome-association study in a Japanese population. Keystone Symposia “Bioactive Lipids: Biochemistry and Dis-eases” , Kyoto,2010.6.6-11

3 5) 池田陽子、森 和彦、上野盛夫、今井浩二郎、近藤衣里、木下 茂. 線維柱帯切除術後早期の眼圧季節変動の検討. 第 33 回日本眼科手術学会総会、東京、2010. 1. 22

36) 上野盛夫、森 和彦、池田陽子、今井浩二郎、木下 茂. 抗緑内障薬上市前後における線維柱帯切開術適応症例の臨床背景と眼圧経過の検討. 第33回日本眼科手術学会総会、東京、2010.1.22

37) 小泉範子、奥村直毅、高橋浩昭、上野盛夫、坂本雄二、平田香菜、羽室淳爾、木下 茂. 水泡性角膜症に対する Rho キナーゼ阻害剤を用いた角膜内皮細胞前房注入の試み. 第34回角膜カンファレンス・第26回日本角膜移植学会、仙台、2010.2.12

38) 奥村直毅、小泉範子、上野盛夫、坂本雄二、高橋浩昭、平田香菜、羽室淳爾、木下 茂. 臨床応用を目指した角膜内皮機能不全に対する水泡性角膜症に対する Rho キナーゼ阻害剤点眼治療法の開発. 第34回角膜カンファレンス・第26回日本角膜移植学会、仙台、2010.2.12

39) 山本真弓、奥村直毅、高橋浩昭、上野盛夫、坂本雄二、平田香菜、木下 茂、小泉範子. 選択的 Rho キナーゼ阻害剤による角膜実質細胞の筋線維芽細胞への形質転換への影響. 第34回角膜カンファレンス・第26回日本角膜移植学会、仙台、2010.2.12

40) 高橋浩昭、小泉範子、奥村直毅、上野盛夫、坂本雄二、平田香菜、羽室淳爾、木下 茂. ウサギ角膜内皮障害眼における選択的 Rho キナーゼ阻害剤による創傷治癒効果の検討. 第34回角膜カンファレンス・第26回日本角膜移植学会、仙台、2010.2.12

41) 池田陽子、高橋純子、森 和彦、上野盛夫、永田真帆、斎田孝彦、木下 茂. 多発性硬化症の病型別網膜神経線維厚減少量の検討. 第114回日本眼科学会総会、第63回日本臨床眼科学会学術展示優秀賞受賞講演、名古屋、2010.4.16

42) 池田陽子、森 和彦、上野盛夫、今井浩二郎、八木知人、大見奈津江、徳田雄市、不破正博、田中雅深、田代啓、木下 茂. 原発開放隅角緑内障疾患マーカーSNPs と全身疾患の関連性の検討. 第114回日本眼科学会総会、名古屋、2010.4.15

43) 今井浩二郎、森 和彦、上野盛夫、池田陽子、川崎 諭、中野正和、谷口孝純、大見奈津江、田代啓、木下 茂. LOXL1 遺伝子プロモータ領域の遺伝子多型と落屑緑内障の関係. 第114回日本眼科学会総会、名古屋、2010.4.15

44) 奥村直毅、小泉範子、上野盛夫、坂本雄二、高橋浩昭、平田香菜、羽室淳爾、木下 茂. 選択的 Rho キナーゼ阻害剤による角膜内皮細胞遊走への影響. 第114回日本眼科学会総会、名古屋、2010.4.16

45) 加藤浩晃、上野盛夫、山村麻里子、池田陽子、今井浩二郎、横山貴子、森 和彦、木下 茂. 緑内障患者の近見視力障害と読字能力の相関. 第114回日本眼科学会総会、名古屋、2010.4.16

46) 山脇敬博、池田陽子、今井浩二郎、上野盛夫、森 和彦、木下 茂. 狭義開放隅角緑内障患者の血液生化学データの検討. 第114回日本眼科学会総会、名古屋、2010.4.16

47) 森 和彦、新開陽一郎、加藤浩晃、池田陽子、上野盛夫、今井浩二郎、木下 茂. Soemmering ring による続発閉塞隅角緑内障に対する手術療法. 第116回京都眼科学会、京都、2010.7.4

- 48) 永田健児、上野盛夫、多田玲、森和彦、中野由紀子、小森秀樹、丸山和一、木下 茂. 4才で発症した Vogt-小柳-原田病の一例. 第116回京都眼科学会、京都、2010.7.4
- 49) 小森秀樹、上野盛夫、米田一仁、木下 茂. Uveal effusion に対するマイトマイシンC併用強膜開窓術. 第116回京都眼科学会、京都、2010.7.4
- 50) 今井浩二郎、森 和彦、池田陽子、上野盛夫、木村健一、木下 茂. 血液生化学データによる正常眼圧緑内障と全身疾患との関連性の検討. 第21回日本緑内障学会、博多、2010.9.24
- 51) 森 和彦、新開陽一郎、加藤浩晃、多田香織、池田陽子、上野盛夫、今井浩二郎、木下 茂. Soemmering ring による続発閉塞隅角緑内障眼に対する手術療法. 第21回日本緑内障学会、博多、2010.9.24
- 52) 池田陽子、森 和彦、上野盛夫、今井浩二郎、大見奈津江、不破正博、中野正和、八木知人、徳田雄市、田代 啓、木下 茂. カスタムチップによる既知緑内障遺伝子解析. 第21回日本緑内障学会、博多、2010.9.25
- 53) 高橋佳奈子、池田陽子、森 和彦、上野盛夫、今井浩二郎、岩間亜矢子、多田香織、吉村彰紘、木下 茂. 網膜神経線維層厚解析装置による正常眼圧緑内障の長期経過観察. 第21回日本緑内障学会、博多、2010.9.24
- 54) 吉村彰紘、池田陽子、森 和彦、上野盛夫、今井浩二郎、岩間亜矢子、多田香織、高橋佳奈子、木下 茂. 正常眼圧緑内障の視神経乳頭形状解析装置による長期経過観察症例の検討. 第21回日本緑内障学会、博多、2010.9.24
- 55) 南泰明、池田陽子、森 和彦、上野盛夫、今井浩二郎、岩間亜矢子、多田香織、高橋佳奈子、木下 茂. 多剤併用例におけるラタノプロストからビマトプロストへの切替え効果の検討. 第21回日本緑内障学会、博多、2010.9.24
- 56) 高橋純子、池田陽子、森 和彦、上野盛夫、今井浩二郎、永田真帆、木下 茂. ラタノプロスト点眼液及び安定性改善処方製剤 MPR-0717 の有効性比較試験. 第21回日本緑内障学会、博多、2010.9.24
- 57) 多田香織、上野盛夫、森 和彦、池田陽子、今井浩二郎、木下茂. 白内障手術後に生じた遅発性水晶体起因性続発緑内障. 第21回日本緑内障学会、博多、2010.9.24
- 58) 小泉範子、奥村直毅、高橋浩昭、上野盛夫、坂本雄二、平田香奈、羽室淳爾、木下 茂. 水疱性角膜症に対する Rho キナーゼ阻害剤を用いた培養角膜内皮細胞前房内注入治療の試み. 眼科再生医療研究会、神戸、2010.11.11
- 59) 池田陽子、森 和彦、上野盛夫、今井浩二郎、不破正博、中野正和、八木知人、大見奈津江、徳田雄市、田中雅深、田代啓、木下 茂. 既知緑内障遺伝子の原発開放隅角緑内障への寄与解析. 眼科 DNA チップ研究会. 神戸、2010.11.11
- 60) 上野盛夫、池田陽子、今井浩二郎、森 和彦、木下 茂. 京滋地区における過去3年間の緑内障薬物治療の変化の検討. 第64回日本臨床眼科学会. 神戸、2010.11.13
- 61) 池田陽子、上野盛夫、今井浩二郎、森 和彦、木下 茂. 緑内障検診における正常

者乳頭形状グレード別判定結果. 第 64 回日本臨床眼科学会. 神戸、2010. 11. 13

6 2) 小森秀樹、上野盛夫、米田一仁、木下 茂. 小眼球を伴う Uveal effusion に対するマイトマイシンC併用強膜開窓術. 64 回日本臨床眼科学会. 神戸、2010. 11. 13

6 3) 永田健児、上野盛夫、小森秀樹、多田玲、森 和彦、中野由起子、丸山和一、木下茂. 4 歳で発症した Vogt-小柳-原田病の 1 例. 64 回日本臨床眼科学会、神戸、2010. 11. 13

6 4) 不破正博、池田陽子、中野正和、谷口孝純、徳田雄市、大見奈津江、八木知人、田中雅深、上野盛夫、森 和彦、木下 茂、田代啓. 緑内障の主病型である原発開放隅角緑内障に関連する多型の網羅的解析. 第 33 回日本分子生物学会年会・第 83 回日本生化学会大会 合同大会、神戸、2010. 2. 10

6 5) 今井浩二郎、森 和彦、上野盛夫、池田陽子、川崎諭、不破正博、中野正和、八木知人、大見奈津江、田代啓、木下 茂. LOXL1 遺伝子プロモータ領域の遺伝子多型 rs16958477 と落屑緑内障との関係、第 33 回日本分子生物学会年会・第 83 回日本生化学会大会 合同大会、神戸、2010. 12. 7

6 6) 木下 茂、上田真由美、外園千恵、稲富勉、横井則彦、中野正和、谷口孝純、八木知人、徳田雄市、不破正博、田代啓. Stevens-Johnson 症候群に対する全遺伝子アプローチによる遺伝子多型解析. 第 31 回日本炎症・再生医学会、東京、2010. 8. 5

6 7) 池田陽子、森 和彦、上野盛夫、今井浩二郎、木下 茂. 眼内レンズ亜脱臼を合併した緑内障に対する緑内障手術成績の検討. 第 34 回日本眼科手術学会. 京都 2011. 1. 28

6 8) 上野盛夫、池田陽子、森 和彦、今井浩二郎、木下 茂. 白内障併用線維柱帯切除術による眼軸朝の変化. 第 34 回日本眼科手術学会. 京都 2011. 1. 28

6 9) 大見奈津江、中野正和、徳田雄市、田代啓. ゲノムコホート資源のためのヒト細胞不死化技術樹立. 第 6 回 3 大学連携研究フォーラム、京都、2010.12.7

7 0) Kimura N, Watanabe A, Nakamura Y, Suzuki K, Toyoda H, Hakamata N, Kinoshita S. The Comparison of Voluntary Blinks Between Young and Older Adults. American Academy of Ophthalmology, Chicago, IL, USA, 2010. 10. 16. -19.

7 1) Hashimoto Y, Maeda F, Tanzawa K, Takizawa G, Kiyokawa K, Kani K, Tabuchi A: Detection of glaucomatous visual field defects using the goggle-type pupil perimeter. ARVO Meeting, Fort Lauderdale, Florida, USA, May 2-6, 2010.

7 2) 前田史篤, 丹沢慶一, 荒木俊介, 切石中実奈, 河本健一郎, 可児一孝, 田淵昭雄: 青色刺激に対する縮瞳の持続性. 第 114 回日本眼科学会, 名古屋, 2010 年 4 月 16 日.

7 3) 河本健一郎, 和氣典二, 安間哲史, 田淵昭雄, 可児一孝: 2 色覚者の混同色軌跡方向の色分類と実効輝度. 日本色彩学会第 41 回全国大会, 岐阜, 2010 年 5 月 15-16 日.

7 4) 田淵昭雄: 屈折異常, 弱視斜視. 第 21 回日本小児科医学会総会フォーラム, 山口, 2010 年 6 月 5・6 日.

7 5) Suzuki Y, Fukushima S, Maeda F, Kani K, Tabuchi A: Effects on asthenopia by using the new visual presentation method to unconsciously induce undogenous eye accommodation. 第 49 回

日本生体医工学会大会, 大阪, 2010年6月25日.

76) 田淵昭雄: 小児視覚障害の病理とその対応. 2010九州ロービジョンフォーラム in 佐賀, 佐賀, 2010年7月18日.

77) 田淵昭雄: 望まれるロービジョンケア. 2010年度呉眼科医会講習会, 呉, 2010年8月15日.

78) 徳武朋樹, 河本健一郎, 可児一孝, 田淵昭雄: 視力値における知覚確率曲線の形状. 第46回日本眼光学学会, 横浜, 2010年9月5日.

79) 前田史篤, 鈴木優介, 福島省吾, 可児一孝, 田淵昭雄: 調節誘導型モニタによる眼精疲労の軽減効果. 第46回日本眼光学学会, 横浜, 2010年9月5日.

80) 河本健一郎, 和氣典二, 安間哲史, 田淵昭雄, 可児一孝: 着色眼内レンズ移植を伴う白内障手術前後の白内障患者の色分類. 第11回日本ロービジョン学会, 岡山, 2010年10月22日.

81) 長尾長彦, 光田志のぶ, 渡辺好政, 横山友彦, 菊入昭, 田淵昭雄: 介護予防事業利用者における視機能関連 QOL. 第11回日本ロービジョン学会, 岡山, 2010年10月22日.

82) 田淵昭雄: 眼科医が行うべき初期ロービジョンケア. 平成22年度兵庫県眼科医会秋季総会, 神戸, 2010年10月16日.

83) 前田史篤, 山本久美子, 後藤友美, 坂田美奈, 半田千草, 周藤陽子, 岡章子, 伊藤浩太郎, 掛田崇寛, 可児一孝, 田淵昭雄: 前眼部光干渉断層計による中心角膜厚の日内変動とサーカディアンリズム. 第64回日本臨床眼科学会, 神戸, 2010年11月13日.

84) 田淵昭雄: 黄斑部疾患のロービジョンケア. 第64回日本臨床眼科学会, 神戸, 2010年11月14日.

85) 田淵昭雄: LV ケアにおける「視覚的補助具」の意義づけ. 第64回日本臨床眼科学会, 神戸, 2010年11月14日.

86) 山下力, 家木良彰, 後藤克聡, 春石和子, 桐生純一, 田淵昭雄: 緑内障の黄斑部 ganglion cell complex, 視神経乳頭周囲 RNFLT, 乳頭形態と視野指標. 第64回日本臨床眼科学会, 神戸, 2010年11月12日.

87) 山下力, 河本健一郎, 彦坂和雄, 難波哲子, 田淵昭雄: 共感覚者の視覚情報処理. 川崎医療福祉学会 第39回研究集会, 倉敷, 2010年11月17日.

88) 難波哲子, 小林泰子, 山下力, 田淵昭雄: 視能矯正専攻臨地実習教育におけるエゴグラムの活用—指導者の対人関係の心構えの検討. 第51回日本視能矯正学会, 神戸, 2010年11月27日.

89) 山下力, 前田史篤, 岡真由美, 田淵昭雄: 光干渉と超音波眼軸長測定装置による眼部生体計測値の比較検討. 第51回日本視能矯正学会, 神戸, 2010年11月27日.

90) 松藤佳子, 吉田健, 田淵昭雄: プリズム順応療法が空間知覚に与える影響—半側空間無視と健常者の比較. 第51回日本視能矯正学会, 神戸, 2010年11月27日.

91) 前田史篤, 米田剛, 半田千草, 岡章子, 周藤陽子, 丹沢慶一, 春石和子, 三田哲大,

可児一孝, 田淵昭雄: 視力の両眼加重と確率加重の検討. 第 48 回日本神経眼科学会, 名古屋, 2010 年 11 月 27 日.

9 2) 鈴木優介, 福島省吾, 前田史篤, 可児一孝, 田淵昭雄: パナソニック電工における人間生活工学の取り組み例 (2) 眼精疲労軽減を目指した新しい視覚呈示方法の開発. 平成 22 年度日本人間工学会関西支部大会, 大阪, 2010 年 12 月 5 日.

9 3) 前田史篤, 可児一孝, 田淵昭雄: 3D に対する眼位の潜在的諸問題. 三次元映像のフォーラム 第 94 回研究会, 東京, 2010 年 12 月 15 日.

9 4) Tabuchi A: Conservative treatment of nysatgmus. Cicendo Cares for Vision to Achieve a Better Quality of Life 102 years of Cicendo Eye Hospital, Bandung, Indonesia, Jan 7-9, 2011.

9 5) Tabuchi A: Effect of 3D images on visual function. Cicendo Cares for Vision to Achieve a Better Quality of Life 102 years of Cicendo Eye Hospital, Bandung, Indonesia, Jan 7-9, 2011.

9 6) 徳武朋樹, 三田哲大, 河本健一郎, 可児一孝, 田淵昭雄: 視力値における知覚確率曲線の傾き—健全成人の場合—. 日本視覚学会 2011 年冬季大会, 東京, 2011 年 1 月 20 日

9 7) 田淵昭雄: 視野の話題と今後の視能訓練士のあり方. 第 1 回 HCO の会, 姫路, 2011 年 1 月 22 日.

9 8) 後藤信祐, 福島美紀子, 大平さおり, 猪俣泰也, 行徳雄二, 伊藤康裕, 谷原秀信: 裂孔原性網膜剥離における vitreoschisis と術後成績. 第 33 回日本眼科手術学会, 東京, 2010 年 1 月 22 日

9 9) 宮崎智成, 福島美紀子, 犬丸淳子, 後藤信祐, 伊藤康裕, 谷原秀信: 糖尿病網膜症に対する硝子体手術後の眼圧コントロール. 第 33 回日本眼科手術学会, 東京, 2010 年 1 月 22 日

1 0 0) 笠岡奈々子, 井上俊洋, 亀田隆範, 藤本智和, 井上みゆき, 谷原秀信: 酸化ストレスに対する Akt を介した線維柱帯細胞の反応. 第 114 回日本眼科学会総会, 名古屋, 2010 年 4 月 16 日

1 0 1) 井上俊洋, 藤本智和, 井上みゆき, 大津直樹, 亀田隆範, 笠岡奈々子, 木許賢一, 谷原秀信: 線維柱帯細胞の TGF- β 2 誘発コラーゲンタイプ 1 発現上昇における Rho/ROCK 経路の関与. 第 114 回日本眼科学会総会, 名古屋, 2010 年 4 月 16 日

1 0 2) 亀田隆範, 井上俊洋, 井上みゆき, 笠岡奈々子, 藤本智和, 吉村長久, 谷原秀信: 線維柱帯細胞の酸化ストレスに対する thymosin beta 4 の抗酸化作用

1 0 3) 榮木大輔, 稲谷大, 井上俊洋, 笠岡奈々子, 瀧原祐史, 谷原秀信: 水晶体偏位と眼内レンズ偏位に対する眼内レンズ縫着術後の眼圧上昇. 第 114 回日本眼科学会総会, 名古屋, 2010 年 4 月 16 日

1 0 4) 瀧原祐史, 稲谷大, 瀬戸孝彦, 岩尾圭一郎, 岩尾美奈子, 井上俊洋, 笠岡奈々子, 村上晶, 布田龍佑, 谷原秀信: 開放隅角緑内障への線維柱帯切除術 有水晶体眼と超音波水晶体乳化吸引術既往眼の比較. 第 114 回日本眼科学会総会, 名古屋, 2010 年 4 月 16 日

1 0 5) 岩尾圭一郎, 稲谷大, 瀬戸孝彦, 瀧原祐史, 岩尾美奈子, 沖波聡, 谷原秀信: ぶど

う膜炎に伴う続発緑内障へのトラベクトミーの手術成績とリスクファクター. 第 114 回日本眼科学会総会, 名古屋, 2010 年 4 月 16 日

1 0 6) 伊藤康裕, 福島美紀子, 犬丸淳子, 宮崎智成, 後藤信祐, 尾池雄一, 谷原秀信: 増殖糖尿病網膜症における硝子体中の Angptl2 の濃度. 第 114 回日本眼科学会総会, 名古屋, 2010 年 4 月 16 日

1 0 7) 田中章子, 稲谷大, 井上俊洋, 笠岡奈々子, 瀧原祐史, 伊藤康裕, 福島美紀子, 谷原秀信: 硝子体切除術後に眼圧上昇を合併する増殖糖尿病網膜症の術前術中因子. 第 114 回日本眼科学会総会, 名古屋, 2010 年 4 月 16 日

1 0 8) 小島祥, 稲谷大, 井上俊洋, 谷原秀信: 外眼手術による結膜癒着のある症例への線維柱帯切除術の術後成績. 第 80 回九州眼科学会, 佐賀, 2010 年 5 月 28 日

1 0 9) 岩尾美奈子, 稲谷大, 瀧原祐史, 岩尾圭一郎, 井上俊洋, 笠岡奈々子, 谷原秀信: 開放隅角緑内障に対するトラベクトミーの術後早期前房内炎症の前向き調査. 第 21 回日本緑内障学会, 福岡, 2010 年 9 月 24 日

1 1 0) 笠岡奈々子, 井上俊洋, 川口淳, 瀧原祐史, 瀬戸孝彦, 稲谷大, 岩尾美奈子, 布田龍佑, 谷原秀信: 線維柱帯切除術後の白内障手術が眼圧経過に与える影響の検討. 第 64 回日本臨床眼科学会, 神戸, 2010 年 11 月 13 日

1 1 1) 亀田隆範, 井上俊洋, 稲谷大, 中西秀樹, 赤木忠道, 豊川紀子, 熊谷京子, 西脇弘一, 黒田真一郎, 栗本康夫, 吉村長久, 谷原秀信: 原発隅角閉塞に対する白内障手術併用隅角癒着解離術における眼圧予後不良因子の検討. 第 64 回日本臨床眼科学会, 神戸, 2010 年 11 月 13 日

1 1 2) 井上俊洋, 稲谷大, 亀田隆範, 笠岡奈々子, 井上みゆき, 藤本智和, 吉村長久, 谷原秀信: 線維柱帯切除術後の白内障手術が眼圧経過に与える影響の検討. 第 64 回日本臨床眼科学会, 神戸, 2010 年 11 月 13 日

1 1 3) Toshihiro Inoue, Masaru Inatani, Hidenobu Tanihara: The concentrations of MCP-1 and IL-8 are dependent on intraocular pressure in aqueous humor of cataract patients. 28th Congress of the European Society of Cataract & Refractive Surgeons, Paris, 2010.9.4.

1 1 4) Takanori Kameda, Toshihiro Inoue, Masaru Inatani, Hideo Nakanishi, Hajime Nakamura, Nagahisa Yoshimura, Tadamichi Akagi, Hirokazu Nishiwaki, Kyoko Kumagai, Yasuo Kurimoto, Hidenobu Tanihara: Risk factors of goniosynechialysis combined with phacoemulsification and intraocular lens implantation for treatment of primary angle closure. 28th Congress of the European Society of Cataract & Refractive Surgeons, Paris, 2010.9.4.

1 1 5) Nanako Kasaoka, Toshihiro Inoue, Yuji Takihara, Kawaguchi Atsushi, Masaru Inatani, Minako Iwao, Hidenobu Tanihara: The impact of PEA on failure of trabeculectomy with mitomycin C. 28th Congress of the European Society of Cataract & Refractive Surgeons, Paris, 2010.9.4.

1 1 6) Daisuke Eiki, Masaru Inatani, Toshihiro Inoue, Nanako Kasaoka, Yuji Takihara, Hidenobu Tanihara: Intraocular Pressure Elevation After Intraocular Lens Suture Fixation for

Ectopia of Crystalline or Intraocular Lenses. The Association for Research in Vision and Ophthalmology annual meeting, 2010.5.2

1 1 7) Akiko Tanaka, Masaru Inatani, Toshihiro Inoue, Nanako Kasaoka, Yuji Takihara, Yasuhiro Ito, Mikiko Fukushima, Hidenobu Tanihara: Risk Factors for Secondary Glaucoma After Vitrectomy for Proliferative Diabetic Retinopathy. The Association for Research in Vision and Ophthalmology annual meeting, 2010.5.2

1 1 8) Yuji Takihara¹, Masaru Inatani¹, Takahiko Seto, Keiichiro Iwao, Minako Iwao, Toshihiro Inoue¹, Nanako Kasaoka, Akira Murakami, Ryusuke Futa, Hidenobu Tanihara: Trabeculectomy With Mitomycin C for Open-Angle Glaucoma in Phakic Eyes vs. Pseudophakic Eyes After Phacoemulsification. The Association for Research in Vision and Ophthalmology annual meeting, 2010.5.2

1 1 9) Takanori Kameda, Toshihiro Inoue, Miyuki Inoue-Mochita, Tomokazu Fujimoto, Nanako Kasaoka, Nagahisa Yoshimura, Hidenobu Tanihara: Antioxidative Effect of Thymosin Beta 4 for Porcine Trabecular Meshwork. The Association for Research in Vision and Ophthalmology annual meeting, 2010.5.4

1 2 0) Tomokazu Fujimoto, Miyuki Inoue-Mochita, Toshihiro Inoue, Naoki Ohtsu, Takanori Kameda, Nanako Kasaoka, Kenichi Kimoto, Hidenobu Tanihara: RhoA/ROCK Pathway Mediated the Expression of Type1 Collagen Induced by TGF- β 2 in Trabecular Meshwork Cells. The Association for Research in Vision and Ophthalmology annual meeting, 2010.5.4

1 2 1) Nanako Kasaoka, Toshihiro Inoue, Takanori Kameda, Tomokazu Fujimoto, Miyuki Inoue-Mochita, Hidenobu Tanihara: The Response to Trabecular Meshwork Cells for Oxidative Stress Mediated by Akt Activation. The Association for Research in Vision and Ophthalmology annual meeting, 2010.5.4

1 2 2) Keiichiro Iwao, Masaru Inatani, Takahiko Seto, Yuji Takihara, Minako Ogata-Iwao, Satoshi Okinami¹, Hidenobu Tanihara: The Long-Term Outcome and Prognostic Factors for Trabeculectomy in Uveitis-Related Glaucoma Eyes: Retrospective Cohort Study at 2 Clinical Centers. The Association for Research in Vision and Ophthalmology annual meeting, 2010.5.4

1 2 3) Yasuhiro Ito, Yuji Takihara, Mikiko Fukushima, Masaru Inatani, Yuichi Oike, Hidenobu Tanihara: Angptl2 Induces Inflammation of Retinal Vessels in Diabetes. The Association for Research in Vision and Ophthalmology annual meeting, 2010.5.6

1 2 4) Koizumi N: Cultivated Corneal Endothelial Transplantation in a Primate for the Future Clinical Application of Corneal Endothelial Regenerative Medicine. Gordon Research Conference Biology & Pathobiology of the Cornea, Ventura, USA, 2010.3.11.

1 2 5) Okumura N, Koizumi N, Ueno M, Sakamoto Y, Takahashi H, Hirata K, Hamuro J, Kinoshita S: Therapeutic potential of a rho kinase inhibitor for the treatment of corneal endothelial dysfunction. Gordon Research Conference Biology & Pathobiology of the Cornea, Ventura, USA,

2010.3.11.

1 2 6) Koizumi N: New strategy for corneal endothelial tissue engineering. Cornea Research Conference , Satellite Meeting of 2nd Asia Cornea Society Biennial Scientific Meeting, Kyoto, Japan, 2010.11.30.

1 2 7) 小泉範子: カニクイザルを用いた角膜内皮再生医療の開発. 第 14 回予防衛生協会セミナー. つくば, 2010.11.19 (平成 21 年度予防衛生協会研究奨励賞受賞講演)

1 2 8) 古泉英貴、山岸哲哉、木下茂: 滲出型加齢黄斑変性の中心窩下脈絡膜厚一患眼と僚眼の比較 第 114 回日本眼科学会総会 (名古屋) 2010 年 4 月 15 日

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

「角膜内皮細胞接着促進剤」(PCT/JP2008/65459)

「緑内障診断チップと変形プロテオミクスクラスター解析による
緑内障統合的判定方法」(特願 2010-294176)

「瞬目計測装置及び瞬目計測方法」(特願 2010 - 232878)

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし